

283
18

283

18

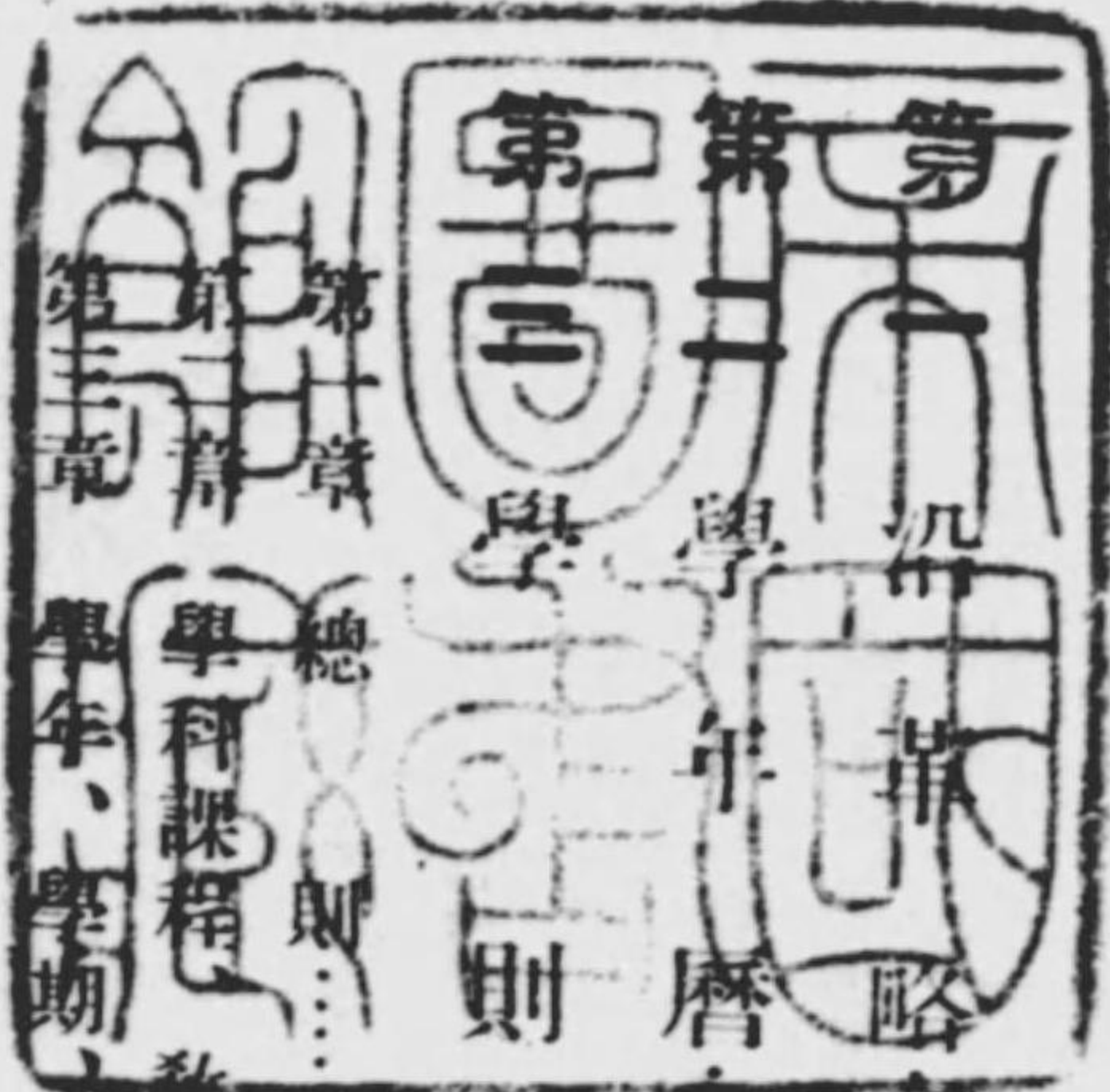
松山高等學校一覽

第拾六學年度（昭和九年度）

本一覽内卒業者氏名中ニ於
 テ族籍氏名等ニ異動又ハ誤
 謬アルコトヲ發見セラレ候
 節ハ本校庶務課ニ御一報ヲ
 煩ハシ度候

松山高等學校一覽

目次



第一章	總則	一
第二章	學科課程	五
第三章	學年、學期、休業	五
第四章	入學、在學	一五
第五章	休學、退學、除名	一六
第六章	成績考查、修了、卒業	一八
第七章	授業料	二〇
第八章	寄宿舎	二一

發行所寄贈本



目次

第九章 服制……………二四

第十章 圖書、器具、機械……………二四

第十一章 褒賞、懲戒……………二五

第四 生徒心得……………三二

第五 細則

一 學則施行細則

第一章 學科、授業……………三三

第二章 在學、休學、轉科、轉類……………三四

第三章 編制……………三六

第四章 成績考查、試驗……………三七

第五章 授業料、寄宿舍費……………四〇

第六章 寄宿舍……………四〇

第七章 服制……………四二

第八章 圖書……………四三

二 生徒心得細則……………四六

三 服務及處務細則……………四七

第一章 教官ノ服務……………四七

第二章 事務員ノ服務……………四八

第三章 學校醫ノ服務……………四九

第四章 教育事務……………五〇

第五章 分課事務……………五三

第六章 文書處理……………五七

第七章 當直……………六一

四 物品會計規程細則……………六七

第六 職員……………六七

第七 生徒及卒業生……………六七

一 生徒氏名……………七五

二 卒業生氏名……………八三

三 生徒年齡調……………一一〇

四 本年度入學者學歷別……………一一〇

五 生徒、入學志願者、入學者及卒業生科類別……………一一一

六 生徒及卒業生原籍地方別……………一二二

七 卒業生狀況調……………一二六

第八 敷地建物

附 錄

- 校友會規則……………一三四
- 校友會役員……………一三七
- 對抗競技ニ關スル全國高等學校長ノ申合事項……………一三九
- 同窓會規約……………一四〇
- 舊職員……………一四三

第九 關係法令

- 一 高等學校令……………一
- 二 高等學校規程……………三
- 三 文部省直轄諸學校官制(抄)……………一六
- 四 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)……………一八
- 五 文部省直轄諸學校長職務規程……………一八
- 六 高等學校教員規程……………一九
- 七 帝國大學官立大學及文部省直轄諸學校雇外人ニ關スル件……………二二
- 八 高等學校高等科入學資格試驗規程……………二三

九 文部省直轄學校外國人特別入學規程

- 附 外國人及殖民地人學生ニ對スル入學取扱方……………二四
- 一〇 臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用……………二四
- 一一 高等師範學校及文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ高等師範學校及直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル件……………二五
- 一二 文部省直轄諸學校ノ二學校以上入學出願者ノ入學スヘキ學校……………二五
- 一三 高等學校高等科學力檢定規程……………二五
- 一四 學生生徒兒童身體檢査規程(抄)……………二六
- 一五 學生生徒兒童身體檢査規程上ノ發育概評決定標準(抄)……………二九
- 一六 學校醫職務規程……………三〇
- 一七 兵役ニ關スル法令(抄)……………三二
- 一八 陸軍現役將校學校配屬令(抄)……………三二
- 一九 學校教練教授要目(抄)……………三三
- 二〇 學校及圖書館特別會計法(抄)……………三五

附 圖

本校敷地建物圖……………

附 表

本校教科用書目表……………

卷末

卷末

283-18

第一 沿革略



四月十四日 勅令第百十二號ニヨリ本校ヲ設置セラレ同日勅令第百十三號ヲ以テ

職員ノ員數ヲ校長一人教授十六人書記三人ト定メラル

四月十五日 第三高等學校教授由比質校長ニ任セラル

四月廿六日 文部省令第十三號ヲ以テ本校ノ位置ヲ愛媛縣松山市ニ定メラル同日

文部省內ニ假事務所ヲ置キテ事務ヲ開始ス

七月三十一日 生徒百六十人ノ入學ヲ許可ス

九月一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ本校學則ヲ制定ス

九月十日 松山市宮古町大林寺ニ於テ本校代用寄宿舎ヲ開始ス

九月十一日 松山市公會堂本校假校舎ニテ入學式ヲ行ヒ同十二日ヨリ授業ヲ開始ス

十月十六日 教育勅語ヲ拜受ス

十月二十六日 十月二十六日ヨリ同月二十九日マテ四日間周桑郡小松町新居郡別子

銅山四坂島精練所及越智郡今治方面へ修學旅行ヲ舉行ス

沿革略

大正九年

- 五月三十一日 勅令第百八十號ヲ以テ本校職員定員ヲ教授二十人書記四人ニ改メ助教一人ヲ加ヘラル
 - 七月二十七日 本校敷地ノ引渡シヲ受ク
 - 七月三十一日 生徒百五十七人ノ入學ヲ許可ス
 - 八月二十三日 愛媛縣溫泉郡道後村大字持田本校新築校舍ニ移轉シ事務ヲ開始ス
 - 九月一日 入學式及始業式ヲ舉行シ同日ヨリ授業ヲ開始ス在學生徒三百十六人
 - 九月二十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十條及第二十一條ヲ改正ス
 - 十月十三日 天皇陛下 皇后陛下御眞影並ニ 皇太子殿下御影下賜セラル
 - 十一月廿二日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三條、第四條、第五條、第二十一條ヲ改正ス
- 大正十年
- 二月二十六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三條、第四條、第五條、第二十一條ヲ改正ス
 - 三月三十日 勅命第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ教授二十五人、助教授四人、書記五人ニ改メラル
 - 四月五日 生徒百五十人ノ入學ヲ許可ス

- 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百六十八人
 - 六月六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第十三條、第十八條、第十九條、第二十七條ヲ改正ス
 - 十一月二十日 本校開校式ヲ舉行ス
- 大正十一年
- 一月十二日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十二條、第二十三條、第二十七條ヲ改正ス

- 三月四日 第一回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 - 三月二十五日 第一回卒業者百二十一人ニ卒業證書ヲ授與ス
 - 四月十一日 生徒百四十四人ノ入學ヲ許可ス
 - 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十八人
 - 五月十二日 寄宿舎食堂炊事場煙突ヨリ出火同建物一棟ヲ燒失ス
 - 七月十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十七條ヲ改正ス
 - 十一月十二日 閑院宮殿下本校ニ台臨遊ハサル
 - 十一月廿四日 皇太子殿下本校ニ行啓遊ハサル
- 大正十二年

- 三月三日 第二回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
- 三月七日 寄宿舎食堂炊事場火災復舊工事竣成ス

三月二十五日 第二回卒業生百四十六人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月一日 本校所在地名ヲ松山市大字持田ト改稱セラル
 四月十一日 生徒百五十六人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百九十二人
 四月二十五日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十七條ヲ改正ス
 七月三日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十二條ヲ改正ス
 七月十二日 同窓會發會式ヲ舉行ス
 十月三十日 十月三十一日ヨリ十一月四日マデ六日間京阪(天橋立、伊勢、高野山
 大阪附近、京都帝國大學臨海研究所等)九州(阿蘇山、耶馬溪、門司、福岡附近)
 方面へ修學旅行ヲ舉行ス

大正十三年

三月三日 第三回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第三回卒業生百五十二人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月十一日 生徒百五十七人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十七人
 六月十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十三條、第二十四條ヲ改正ス
 七月十三日 第二回同窓會總會ヲ開ク
 十月二十四日 開校第五週年記念式ヲ舉行ス

大正十四年

三月三日 等四回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第四回卒業生百三十五人ニ卒業證書ヲ授與ス
 三月三十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第二十三條乃至第二十七條ヲ改正ス
 四月一日 勅令第八十一號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校助教
 授四人ヲ三人ニ改メラル
 四月七日 校長由比質第七高等學校造士館長ニ任セラレ橋本捨次郎校長ニ任セ
 ラル
 四月十一日 生徒百五十三人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百九十八人
 五月十日 天皇 皇后兩陛下御結婚滿二十五年奉祝式ヲ舉行ス
 六月三日 勅令第二百十六號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校書
 記五人ヲ六人ニ改メラル
 七月十三日 第三回同窓會總會ヲ開ク
 十二月十二日 照宮成子内親王殿下御誕生奉祝式ヲ舉行ス

大正十五年

三月三日 第五回卒業生ヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第五回卒業生百六十五人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月 七日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則全部ヲ改正ス
 四月 十一日 細則全部ヲ改正ス
 四月 十二日 始業式ヲ舉行ス
 四月 十九日 生徒百六十二人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十九日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百八十七人
 九月 三日 第四回同窓會總會ヲ開ク
 十二月 十七日 天皇陛下ノ御惱御平癒祈願ノ御爲伊勢神宮遙拜式ヲ舉行ス

昭和二年

一月 八日 大行天皇奉悼式ヲ舉行ス
 二月 七日 大正天皇御大喪儀遙拜式ヲ舉行ス
 三月 三日 第六回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月 二十五日 第六回卒業者百三十九人ニ卒業證書ヲ授與ス
 三月 三十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條、第三十五條、第三十八條、第三十九條ヲ改正ス
 四月 十一日 始業式ヲ舉行ス
 四月 十九日 生徒百五十三人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十九日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百九十一人
 六月 三十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十一條ヲ改正ス

七月 十二日 第五回同窓會總會ヲ開ク
 八月 二十七日 校長橋本捨次郎依願本官ヲ免セラレ教授金子幹太校長ニ任セラル
 九月 十日 久宮祐子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル
 十二月 廿七日 勅令第三百六十六號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校ハ助手ノ欄ニ一人ヲ加ヘラル

昭和三年

三月 三日 第七回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月 八日 久宮祐子内親王殿下御薨去ニ付 天機並ニ御機嫌伺ヲ奉ル
 三月 十三日 久宮祐子内親王殿下御葬儀ヲ行ハセラル、ニ付遙拜ヲ行フ
 三月 二十五日 第七回卒業者百五十三人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月 十一日 生徒百五十六人ノ入學ヲ許可ス
 四月 十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百七十五人
 七月 六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第八條、第十條、第十一條、第十六條、第二十二條ヲ改正ス

九月 二日 第六回同窓會總會ヲ開ク
 九月 二十八日 秩父宮雅仁親王殿下御結婚ニ付祝詞ヲ奉ル
 十月 九日 天皇陛下 皇后陛下御眞影下賜セラル
 十月 二十九日 勅令第二百五十六號ヲ以テ直轄諸學校官制中改正セラレ第六條中生

徒監ヲ生徒主事ニ改メ書記ノ次ニ生徒主事補ヲ加ヘラル同日勅令第二百五十七號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ教授ノ欄ノ下ニ生徒主事ノ欄、書記ノ欄ノ下ニ生徒主事補ノ欄加ハリ本校ハ生徒主事及生徒主事補ノ各欄ニ一人ヲ加ヘラル

十一月十日 即位禮當日ニ付祝賀式ヲ舉行シ賀表及言上書ヲ奉呈ス校長ハ京都ニ於テ即位禮諸儀ニ參列ノ光榮ニ浴ス

昭和四年

一月二十七日 久邇宮邦彥王殿下御薨去ニ付 天機並ニ御機嫌伺ヲ奉リ久邇宮家ニ奉悼ノ詞ヲ申上ク

三月二日 第八回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第八回卒業者百四十一人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月一日 學則中第三十四條、第三十五條、第三十九條ヲ改正ス

四月十一日 生徒百六十人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十九人

六月一日 細則一學則施行細則第六章寄宿舎第五十四條、三服務及處務細則第五章分課事務第四十八條及第四十九條中改正ス

七月十二日 第七回同窓會總會ヲ開ク

九月三十日 孝宮和子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル

十月二日 神宮式年遷宮遙拜式ヲ舉行ス

十月十七日 開校十周年記念祝賀式ヲ舉行シ同窓會ノ建設ニ係ル由比創立校長ノ胸像除幕式ヲ行ヒ勤績者ヲ表彰ス

十月十八日 本校職員、生徒ノ物故者祭式ヲ執行ス

昭和五年

二月四日 高松宮宣仁親王殿下御結婚ニ付祝詞ヲ奉ル

二月十七日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第四十條、第四十一條ヲ改正ス

三月一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第六十一條ヲ改正ス

三月三日 第九回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第九回卒業者百四十三人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月三十一日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條、第三十五條、第三十九條ヲ改正ス

四月七日 本校創立校長現第七高等學校造士館長由比質薨去ニ付弔意ヲ表ス

四月十一日 生徒百五十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式及始業式ヲ舉行ス在學生徒四百八十六人

四月十六日 故由比本校創立校長ノ十日祭遙拜式ヲ舉行ス

七月十一日 第八回同窓會總會ヲ開ク

十月二日 本校所在地名ヲ松山市湯渡町ト改稱セラル

十月三十日 教育勅語漢發滿四拾周年祝賀式ヲ舉行ス

昭和六年

二月五日 昭和三年十月九日御下賜ノ 天皇陛下 皇后陛下御眞影ヲ奉還ス

二月五日 天皇陛下 皇后陛下御眞影下賜セララル

二月六日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第九條ヲ改正ス

三月三日 第十回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月七日 順宮厚子内親王殿下御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル

三月二十五日 第十回卒業者百四十四人ニ卒業證書ヲ授與ス

四月十一日 生徒百五十四人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百七十六人

四月十三日 始業式ヲ舉行ス

六月二十五日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第五十條ヲ改正ス

七月十一日 第九回同窓會總會ヲ開ク

十二月十一日 文部省告示第三百三十號ヲ以テ各官立高等學校高等科ニ入學セシム

ヘキ生徒概數ハ各組毎ニ三十七名ト定メララル

昭和七年

二月十三日 昭和六年十月三十日 天皇陛下 東京高等師範學校六十年記念式場

並ニ東京文理科大學及東京高等師範學校ニ行幸ノ際下シ賜ハリタル勅語ノ謹寫ヲ

金庫内ニ奉置ス

二月二十七日 松山聯隊某方面ニ出動ニ付職員生徒見送リス

三月三日 第十一回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス

三月二十五日 第十一回卒業者百三十六人ニ卒業證書ヲ授與ス

三月二十九日 松山聯隊凱旋ニ付職員生徒歡迎ス

四月十一日 生徒百四十二人ノ入學ヲ許可ス

四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百六十八人

四月十二日 始業式ヲ舉行ス

四月二十日 文部大臣ノ許可ヲ受ケ學則中第三十四條第三十五條第三十九條ヲ改

正ス

五月一日 本校所在地名ヲ松山市持田町ト改稱セララル

七月十一日 第十回同窓會總會ヲ開ク

十月十四日 發文八三號ヲ以テ明治二十三年十月三十日煥發セラレタル教育ニ關

スル勅語ハ毎年十月三十日ニ以テ奉讀式ヲ舉行スヘキ旨文部省ヨリ達セララル

十二月七日 寄宿舍物置ヨリ出火同建物一棟ヲ燒失ス

十二月廿七日 勅令第三百九十五號ヲ以テ直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校

助教授三人ヲ二人ニ助手一人削ラル

昭和八年

三月三日 第十二回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第十二回卒業者百四十一人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月十一日 生徒百四十三人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百五十五人
 四月十二日 始業式ヲ舉行ス
 七月十一日 第十一回同窓會總會ヲ開ク
 十二月九日 文部省告示第三百二十五號ヲ以テ各官立高等學校ニ入學セシムヘキ
 生徒概數ハ各組毎ニ三十名ト定メラル
 十二月廿三日 皇太子繼宮明仁親王殿下 御誕生ニ付祝詞ヲ奉ル

昭和九年

三月三日 第十三回卒業スヘキ生徒ノ送別式ヲ舉行ス
 三月二十五日 第十三回卒業者百五十一人ニ卒業證書ヲ授與ス
 四月十一日 生徒百十六人ノ入學ヲ許可ス
 四月十一日 入學式ヲ舉行ス在學生徒四百十四人
 四月十二日 始業式ヲ舉行ス

第二學年 曆

自昭和九年四月三十一日
至昭和十年三月三十一日

第一學期 (自四月三十一日)

四月十日 (火) 春季休業終ル
 四月十一日 (水) 第一學期授業始ル
 四月十五日 (日) (創立記念日) 休業
 四月二十九日 (日) (天長節) 休業
 七月十日 (火) 第一學期授業終ル
 七月十一日 (水) 夏季休業始ル

第二學期 (自九月三十一日)

九月五日 (水) 夏季休業終ル
 九月六日 (木) 第二學期授業始ル
 九月二十四日 (月) (秋期皇靈祭) 休業
 十月十七日 (水) (神嘗祭) 休業
 十一月三日 (土) (明治節) 休業

十一月廿三日(金)(新嘗祭)
 十二月廿四日(月)
 十二月廿五日(火)

休業
 第二學期授業終ル
 冬期休業始ル

第三學期 (自一月三十一日 至三月三十一日)

一月七日(月)
 一月八日(火)
 二月十一日(月)(紀元節)
 三月九日(土)
 三月十一日(月)

冬期休業終ル
 第三學期授業始ル
 休業
 第三學期授業終ル
 春期休業始ル

第三學則

第一章 總則

第一條 本校ハ高等學校令ニ基キ高等科ヲ置キ修業年限ヲ三個年トス

第二章 學科課程、教授時數

第二條 本校ノ學科ハ高等科文科及理科トシ其ノ學科課程及教授時數ハ高等學校規程ノ定ムル所ニ據ル

第三條 前條各科ノ學科目中外國語ハ英語及獨語トス

第三章 學年、學期、休業

第四條 學年ハ四月一日ニ始ムリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 自四月一日至八月三十一日

第二學期 自九月一日至十二月三十一日

第三學期 自一月一日至三月三十一日

第六條 定期休業日左ノ如シ

一 日 躍 日
 一 本校創立記念日 四月十五日

- 一天 長節 四月二十九日
 - 一夏期休業 自七月十一日至九月五日
 - 一秋季皇靈祭 秋分日
 - 一神嘗祭 十月十七日
 - 一明治節 十一月三日
 - 一新嘗祭 十一月二十三日
 - 一冬季休業 自十二月二十五日至一月七日
 - 一紀元節 二月十一日
 - 一春季休業 自三月十一日至四月十日
- 臨時休業日ハ其ノ都度之ヲ定ム

第四章 入學、在學

- 第七條 入學ノ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス
 - 第八條 入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者及高等學校規程第四十三條ニ該當スル者ニシテ身體検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ニ限ル
 - 第九條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科、類及選擇學科目ニ依ル種別ヲ指定スヘシ
- 指定スヘキ科、類及選擇學科目ニ依ル種別ハ次ノ如シ

文科
甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科
甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

選擇學科目ニ依ル種別
イ、第三學年ニ於テ數學每週二時間及圖畫每週二時間ヲ選擇スヘキモノ
ロ、第三學年ニ於テ植物及動物每週四時間ヲ選擇スヘキモノ

- 入學前在學シタル學校ニ於テ英語ヲ修メタル者ハ志望ノ類ニ箇(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ、獨語ヲ修メタル者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限ル、試験若ハ檢定ノ合格ニ依リ入學資格ヲ有スル者ノ志望シ得ル類ハ之ニ準ス
- 理科入學志願者ニ就テハ各類ヲ通シテ選擇學科目ノ種別(イ)(ロ)兩者ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ種別ノ志望順位ヲ定ムヘシ
- 第十條 入學志願者ノ數各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ高等學校規程第四十四條ニ依リ入學者ヲ選抜ス
- 第十一條 入學考査料ハ金五圓トス

- 既納ノ入學考査料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス
- 第十二條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マデニ戸籍謄本、履歷書、在學證書

(書式一) 及入學資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添へ本校ニ差出スヘシ
正當ノ事由ナクシテ指定ノ期日マデニ前項ノ手續ヲ了セサル場合ハ其ノ入學許可ヲ
無効トス

保證人ニ關スル規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第十三條 入學シタル者ハ本校所定ノ方式ニ依リ宣誓ヲ爲スヲ要ス、故ナクシテ宣誓
ヲ爲サル者ニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消ス

第十四條 退學シタル者、退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ再入學ヲ願出ツルトキハ
同一學年以下ノ學年ニ限り詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 入學後ニ於テハ轉科轉類ヲ許サス但シ特別ノ事情アルモノニ對シテハ學則
施行細則ノ規定ニ依リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 生徒ハ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他校ニ入學又ハ轉學ヲ出願スルコト
ヲ得ス

第五章 休學、退學、除名

第十七條 疾病又ハ已ムヲ得サル事由ニ因リ三ヶ月以上引續キ修學スルコト能ハサル
見込ノ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出許可ヲ得テ其ノ學年間休學ス
ルコトヲ得但シ疾病ニ因ル場合ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條 前條ニ依リ休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年ノ課程ヲ修

メシム

第十九條 陸海軍現役ニ服シ又ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス服
役滿期又ハ召集解除後ハ一ヶ月以内ニ原學年ニ復スヘシ

第二十條 休學ハ當該學年間ニ限り同一學年ニ於テハ一回トス但シ前條ニ依ル休學ハ
此ノ限ニ在ラス

第二十一條 退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出テ校長ノ
許可ヲ受クヘシ但シ疾病ニ因ル場合ハ願書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續キ一年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナク又届出ヲ爲サスシテ引續キ三十日以上缺席シタル者

五、出席常ナラサル者

六、二回引續キ同一學年ニ止マル者但シ兵役其ノ他特別ノ事情アル者ハ此ノ限ニ在
ラス

七、授業料又ハ寄宿舎費ノ滯納三週日ニ及フ者

八、第十六條ノ手續ヲ爲サスシテ他校ニ入學又ハ轉學ヲ出願シタル者

第二十三條 除名ニ關シテハ前條ノ外臨機ノ處置ヲ爲スコトアルヘシ

第六章 成績考査、修了、卒業

第二十四條 生徒ノ學業成績ヲ考査シテ學期成績、學年成績及卒業成績ヲ定ム
學期成績ハ當該學期間ノ勤惰、平常成績及試験成績ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ學科目
ノ種類ニ依リテハ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ學年成績ハ當該學年ニ於ケル各學期
成績ニ依リテ之ヲ定ム

卒業成績ハ在學中ノ三學年成績ニ依リテ之ヲ定ム

第二十五條 學業成績ヲ表ハスニハ學期成績及學年成績ニ在リテハ科目評點及平均評
點ヲ以テシ卒業成績ニ在リテハ各學年成績ノ總點ノ和ヲ以テス

科目評點及平均評點ハ一百點ヲ以テ滿點トス

第二十六條 試験ハ定期及臨時ニ之ヲ行フ

定期試験ハ各學期末ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ擔任教官ノ見込ニ依リテ之ヲ行フ

第二十七條 休學、停學、缺席等ノ爲試験ヲ受ケサル者ニ對シテハ追試験ヲ行ハス試
驗成績ヲ零トス但シ正當ノ事由ニ因リ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ當該學期ニ於
ケル平素ノ學業成績及他ノ學期ノ學業成績ヲ參酌シテ認定評點ヲ與フ

第二十八條 一學年間ニ二回以上同一科目ノ定期試験ヲ受ケサル者ハ特別ノ詮議ニ依
ル外進級又ハ卒業セシムコトナシ

第二十九條 學年成績ノ平均評點六十點以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ
學年ノ課程ヲ修了シ又ハ全學科ヲ卒業シタルモノトス

一、各科目ノ評點六十點以上ヲ得タル者

二、科目評點六十點未滿ノモノ一科目アルモ其ノ評點五十點未滿四十點以上ナル者

三、科目評點六十點未滿ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十點以上一ハ四十點以
上ナル者

四、科目評點六十點未滿ノモノ四科目以内ニシテ其ノ評點何レモ五十點以上ナル者

第三十條 修了又ハ卒業ノ判定ハ前條ニ依ル外平素ノ行狀及學業進步ノ狀況ヲ參酌シ
テ特別ノ詮議ヲ爲スコトアルヘシ

第三十一條 操行不良ノ者又ハ缺席缺課遅刻多キ者ハ第二十九條ノ規定ニ依ラス原級
ニ止ムルコトアルヘシ

第三十二條 成績考査ノ結果進級又ハ卒業セサル者ハ原級ニ止メ次學年ノ始メヨリ當
該學級ノ全學科ヲ再修セシム

第三十三條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス(書式二)

第七章 授業料

第三十四條 授業料ハ一學年金八拾圓トス

第三十五條 授業料ハ左ノ三期ニ分納セシム

第一學期分納額	金 參 拾 圓
第二學期分納額	金 參 拾 圓

第三學期分納額 金 貳 拾 圓

徵收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 授業料ハ缺席、停學等ノ爲免除スルコトナシ但シ第十九條ニ依リ休學スル者ニ對シテハ授業料徵收開始期日前ニ在リテハ月割額ニ依リテ次月分ヨリ其ノ後ニ在リテハ次學期以降ノ分納額ヲ免除シ爾餘ノ休學者ニ對シテハ次學期以降ノ分納額ヲ半減ス

第三十七條 第十九條ニ依リ休學シタル者、學期ノ中途ニ於テ課業ニ就キタルトキ及學期ノ中途ヨリ再入學ノ許可ヲ受ケタル者ノ當該學期ノ授業料分納額ハ月割額ニ依リ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス

徵收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 學期ノ中途ニ於テ退學スル者ニ對シテハ次學期以降ノ授業料分納額ヲ免除ス

第三十八條ノ二 授業料未納中除名又ハ退學ヲ命シタル者ニ付テハ未納ニ屬スル分納額及其ノ以降ノ分納額ハ之ヲ徵收セス

第三十九條 第三十六條但シ書及第三十七條ノ場合ニ於ケル授業料月割額ハ金八圓トス但シ月割額ニ關シテハ七月及八月ハ算入セス

第四十條 生徒ニシテ學費支辨ノ極メテ困難ナル者ニ對シテハ平素ノ操行及學業成績

其ノ他ノ事情ヲ調査シ授業料ヲ減免スルコトアルヘシ

第四十一條 前條ニ依ル授業料減免ノ事情止ミタリト認メタルトキハ翌月分ヨリ所定ノ授業料ヲ納付セシム

第四十二條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第八章 寄宿舎

第四十三條 寄宿舎ハ生徒ヲ寄宿セシメ本校ノ教育ト相俟チテ生徒ヲ訓育スル所トス

第四十四條 寄宿舎ハ一學年ヲ以テ一期トシ開閉ノ期日ハ其ノ都度之ヲ定ム

第四十五條 新ニ入學シタル生徒ハ特別ノ事情ニ依リ通學ノ許可ヲ受ケタル者ノ外ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス

寄宿舎ニ入ルヘキ者ノ數、收容人員ニ超過スルトキハ通學ヲ命スルコトアルハシ

第四十六條 前條第一項以外ノ生徒ニシテ入舎セント欲スル者ハ願出テ許可ヲ受クヘシ

第四十七條 寄宿生徒ハ其ノ學年中在舎スルモノトス但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事情アル者ニ對シテハ詮議ノ上退舎又ハ外泊セシムルコトアルヘシ

第四十八條 寄宿舎費ハ一學年金貳拾圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

- 第一學期分納額 金六圓
- 第二學期分納額 金八圓
- 第三學期分納額 金六圓

徵收期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 寄宿舎費徵收期後入舎スル者ノ寄宿舎費ハ其ノ月分ヨリ月割額ニヨリテ徵收ス

中途退舎スル者ニ對シテハ次學期以降ノ分納額ヲ免除ス

第五十條 前條ノ場合ニ於ケル寄宿舎費月割額ハ金貳圓トス但シ月割額ニ關シテハ七月及八月ハ算入セス

第五十一條 既納ノ寄宿舎費ハ何等ノ事情アリトモ之ヲ還付セス

第五十二條 寄宿生徒ニシテ其ノ本分ニ背ク行爲アリト認ムルトキハ情狀ニ依リ退舎ヲ命スルコトアルヘシ

第九章 服 制

第五十三條 生徒ノ制服ハ別表ノ通り之ヲ定ム

第五十四條 生徒ハ細則ノ定ムルトコロニ據リ制服ヲ着用スヘシ

第十章 圖書、器具、機械

第五十五條 本校所有ノ圖書ハ凡テ之ヲ書庫ニ藏シ圖書閱覽室ヲ設ケテ職員生徒ヲシテ之ヲ閱覽セシム

第五十六條 書庫ニハ本校所藏ノモノノ外他ノ委託ニ係ル圖書ヲ保管スルコトアルヘシ

第五十七條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員生徒及校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第五十八條 教務及事務上特ニ必要ノ圖書ハ校長ノ許可ヲ得テ特別ノ場所ニ備ヘ置クコトヲ得

第五十九條 職員ハ別ニ定ムル所ニ依リ本校所藏ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得

第六十條 學術用器具機械ハ所屬教室ニ備ヘ付ク

器具機械ハ之ヲ搬出スルコトヲ得ス但シ授業上研究上必要アル場合ニ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 生徒ハ擔任教官ノ許可ヲ得テ實習用器具及機械ヲ使用スルコトヲ得

第六十二條 本校所藏ノ圖書器具機械ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ其ノ損害程度ニ依リ同一ノ物品ヲ以テ之ヲ償ハシムルカ又ハ修理セシムルコトアルヘシ

第十一章 褒 賞、懲 戒

第六十三條 在學中無缺席ノ者又ハ特ニ著シキ善行アル者ハ之ヲ褒賞スルコトアルヘシ

第六十四條 校規風紀ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第六十五條 懲戒ハ戒飭、停學及退學トス
戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ停學ハ登校ヲ停止シテ反省セシメ退學ハ學校ヨリ放逐スルモノトス

附 則

本則ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

表 (書式一)

參錢收入
印紙貼付
消印ノコ

在學證書

私儀

今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中御規則等堅ク可相守ハ勿論御校ノ學籍ヲ離レ候後ト雖モ在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必ス履行可致此段證書提出候也

年 月 日

本籍 族稱 戶主 氏名 續柄
科 類 學年

本 人 (氏名印)

年 月 日生

松山高等學校長

殿

裏 (書式一)

前文

儀御校へ入學御許可相成候ニ就テハ在學中督勵保護ノ責ニ任スルハ勿論御校ノ學籍ヲ離レ候後ト雖モ同在學中ニ生シタル義務ハ拙者ニ於テ一切引受可申仍テ證書如斯候也

年 月 日

本籍

現任所

旅稱

職業

本人トノ關係

保

證

人

(氏名印)

年 月 日生

松山高等學校長

殿

三十八號

卒業證書

校印
府縣
氏名

年月日生

本校所定ノ高等科 科 類ノ學
科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍
テ之ヲ證ス

年月日

松山高等學校校長位勳學位氏名印

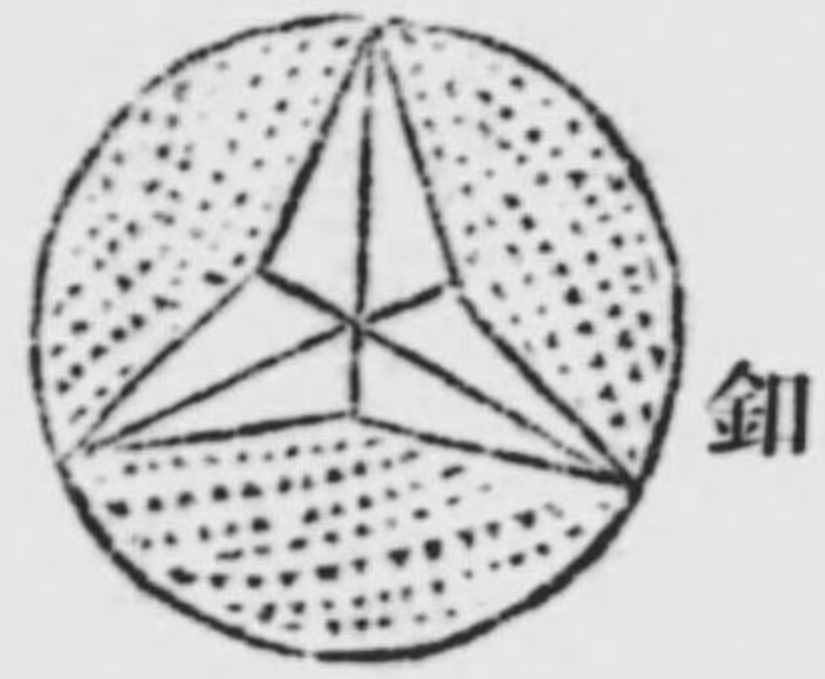
陶印

第號

(服制表)

制	帽				制					
	種二第		種一第		種一第		種一第			
夏衣	襟	地質	制式	前地質	前地質	眼底	頤紐	頤紐	橫章	制式
	霜降小倉	文科ハL 理科ハS (金色)	普通形	麥藁綠幅凡九糎 第一種制帽ニ同シ 海老茶地織込白線二條	黑絨	真鍮製金色本校徽章 如圖	黑革	黑革	黑革 釦 (金色)	白線二條 佛蘭西形

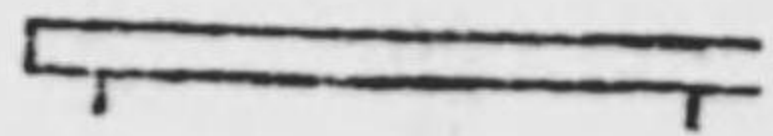
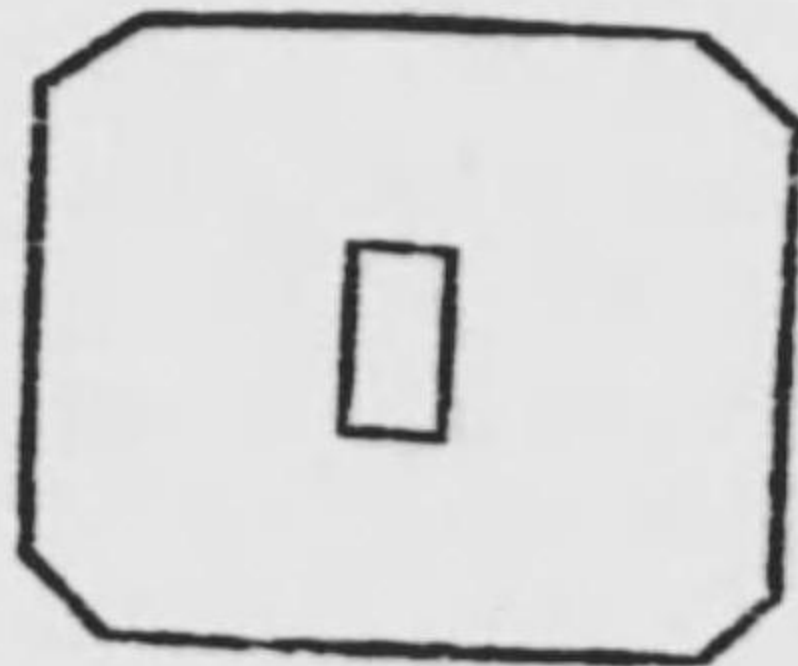
實物ト等シキ寸法



釧



徽
章



表

脚 絆	靴	服			
		冬		服	
		袴	衣	袴	
制地式質	制地式質	制地式質	制釧襟地式章質	制地式質	制釧式
卷脚絆	カーキ色絨又ハ綿布	濃紺絨「ヘル」類若ハ濃紺小倉 夏服ニ同シ	濃紺絨「ヘル」類若ハ濃紺小倉 文科ハL 理科ハS (金色) 如圖(金色) 夏服ニ同シ	普通 霜降小倉	如圖(金色) 背廣形立襟(袷角形) ポケットトハ上衣ノ左右 兩脇及左胸部ニ各一個

第四 生徒心得

本校生徒タル者ハ教育ニ關スル

聖旨ヲ奉體シテ人格ノ完成ニカメ以テ國家有用ノ材タランコトヲ期スヘシ
居常遵守スヘキ要綱左ノ如シ

- 一 校則ヲ嚴守シ師長ヲ尊敬スルコト
- 二 學術ヲ研修シ思想ヲ洗煉スルコト
- 三 志操ヲ高潔ニシ威儀ヲ正シクスルコト
- 四 起居飲食ヲ慎ミ身體ヲ強健ニスルコト
- 五 質實剛健ヲ旨トシ華奢放縱ノ風アルマシキコト
- 六 信義ヲ尊重シ交友ト親和スルコト

第五 細則

一 學則施行細則

第一章 學科、授業

- 第一條 學則第二條ノ學科ハ別ニ定ムル教授要目ニ依リテ之ヲ實施ス
- 第二條 新ニ入學シタル者ニシテ高等學校規程第四條第四項ノ隨意科目ヲ履修セントスル者ハ指定ノ期日マテニ届出ツヘシ但シ隨意科目ハ中途ヨリ其ノ履修ヲ止ムルコトヲ得ス
- 第三條 選抜試験ノ外國語ニ獨逸語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ本校ノ都合ニヨリテハ第二外國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ
- 第四條 每週授業日課ハ學年ノ始メニ於テ之ヲ定ム但シ場合ニ依リ學年ノ中途ニ之ヲ變更シ又ハ臨時ニ日課ヲ變更スルコトアルヘシ
- 第五條 特別ノ事情ニ依リ教官ニ於テ臨時所定ノ日課ヲ變更スル必要アリト認メタルトキハ校長ニ申告シテ指揮ヲ受クヘシ
- 第六條 一授業時間ヲ五十分トス但シ學科ニ依リ一授業時ヲ延長シ又ハ二時以上連續授業スルコトアルヘシ

第七條 休業日ノ外左ノ場合ニ於テハ日課所定ノ授業ヲ缺ク

- 一 試験、儀式其ノ他ノ行事ヲ以テ授業ニ代ヘタルトキ
- 一 教官ノ出張、賜暇、忌引、缺勤ニ依リ授業セサルトキ

第八條 前條ニ依リ授業ヲ缺キタル結果學業ノ進歩ニ妨ケアルト認ムルトキハ所定ノ日課以外ノ授業ヲ課スルコトアルヘシ

第九條 教科用圖書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケテ校長之ヲ定ム

第二章 在學、休學、轉科、轉類

第十條 新ニ入學シタル生徒ニシテ左記ノ一ニ該當スルモノノ外ハ入學後一年間ハ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス

- 一 自宅、職員宅、親戚宅ヨリ通學ノ許可ヲ受ケタルモノ
- 一 特別ノ事情アリテ他ヨリ通學ノ許可ヲ受ケタルモノ

第十一條 生徒ノ保證人ハ父兄トス但シ父兄ナキトキハ保證ノ責ニ任シ得ヘキ近親者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十二條 保證人住所ヲ變更シ又ハ改印シタルトキハ生徒ヨリ直ニ其ノ旨届出ツヘシ

第十三條 保證人死亡其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ義務ヲ盡スコト能ハサルニ至ルトキハ生徒ハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書ヲ更新スヘシ

第十四條 生徒戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ戶籍謄本ヲ添ヘ速ニ届出ツヘシ

第十五條 生徒ハ異動ノ有無ニ拘ラス毎年四月二十五日マテニ所定ノ書式ニ依リ宿所

ニ關スル届出ヲナスヘシ

第十六條 生徒宿所變更シタルトキハ三日以内ニ前條ノ手續ヲナスヘシ

第十七條 生徒ノ宿所ヲ不適當ナリト認ムルトキハ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ課業ニ缺席スル者ハ其ノ事由及日時ヲ

詳記シ其ノ當日ヨリ三日以内ニ届出テ病氣缺席七日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

但シ體操術科ヲ受ケ難キ者ハ體操免除又ハ見學願ニ醫師ノ診斷書ヲ添付シ許可ヲ受クヘシ

第十九條 生徒ハ左ノ事由ニ依リ課業ニ缺席シタルトキハ之ヲ他ノ事故ニ依ル缺席ト

區別シ左ノ期間内ニ限り缺席日數時數ニ算入セス

- 一 父母ノ喪ニ丁レル場合 七日以内
- 二 祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ丁レル場合 四日以内
- 三 徴兵検査ヲ受タル場合之ニ要スル往復日數時數

第二十條 學則第十七條ニ據ル休學ニ關スル取扱ハ第三學期ニ入りテハ之ヲ行ハス

第二十一條 陸海軍現役ニ服シ又ハ召集ニ應シタル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ期間及部

隊又ハ艦艇名ヲ具シ速ニ届出ツヘシ

第二十二條 生徒ヨリ提出スル凡テノ願届書ハ指導教官ノ承認ヲ經テ關係各課ニ差出スヘシ

指導教官出張、缺勤等ノタメ承認ヲ受ケ難キ場合ハ其ノ旨申出指揮ヲ受クヘシ

第二十三條 學則第十五條ニヨリ轉科轉類ヲ希望スル者ハ三月二十日限り願出ツヘシ
此ノ場合ニ於ケル詮議ノ條件左ノ如シ

- 一 轉科轉類ハ同學年若ハ其レ以下ノ學年ニ限ル
- 一 第一學年ニ轉科轉類セントスル者ニハ入學者選抜試驗ヲ受ケシム
- 一 第二學年以上ニ轉科轉類セントスル者ニハ缺員アル場合ニ限り從來ノ操行及學業成績ヲ參考シタル上檢定試驗ヲ行フ檢定試驗ハ轉入セントセル科類ニ於ケル前學年以下ノ全學科目ニ就テ之ヲ課スルモノトス但シ轉科轉類セントスル者ノ既修ノ學科目ニシテ其ノ内容程度及每週教授時數ニ於テ同等以上ト認ムヘキ場合ニ限リ試験ヲ課セサルコトアルヘシ
- 一 轉科、轉類ノ時期ハ學年ノ始メトス

第三章 編制

第二十四條 學級ハ第一學年ノ始メニ編制シ之ヲ組ト稱シ三學年ヲ通シテ變更セサルヲ常例トス

第二十五條 各學級ニ正副總代各一名ヲ置ク

第二十六條 總代ハ當該學級生徒ヲシテ候補者ヲ互選セシメ校長之ヲ命ス但シ第一學年級ノ始メニ於テハ選舉ニ依ラス學級主任ニ於テ假ニ總代ヲ定メ當分ノ間其ノ任ニ當ラシム

第二十七條 總代ノ任期ハ一學年間トス
第二十八條 總代ハ學級主任ノ指揮ヲ受ケ當該學級ニ於テ校規命令ノ實行ニ力メ其ノ秩序ヲ保持スヘシ

第四章 成績考查、試験

第二十九條 學業成績評點科目數左ノ如シ

文科

學科	學年		
	一	二	三
修身	一	一	一
國語及漢文	三	三	三
第一外國語	三	三	三
第二外國語	〇	〇	〇
歷史	一	二	一
地理	一	一	一
哲學概說	一	一	一
心理及論理	一	一	一
法制及經濟	一	一	一

理科

學科	學年		
	一學年	二學年	三學年
數學	—	—	—
自然科學	—	—	—
體操	(三)	(三)	(三)
計	(三)	(三)	(三)
修身	—	—	—
國語及漢文	二	—	—
第一外國語	三	三	三
第二外國語	(〇)	(〇)	(〇)
數學	二	二	二
物理學	—	—	—
化學	—	—	—
植物及動物	—	—	—
植物及地質	—	—	—
礦物及地質	—	—	—
心理	—	—	—

計	學年		
	一學年	二學年	三學年
法制及經濟	—	—	—
圖書	—	—	—
體操	(三)	(三)	(三)
計	(三)	(三)	(三)

第三十條 隨意科ノ科目評點ハ學則第二十九條ノ條件ニ加フ

第三十一條 各教官ハ每學期末ニ於テ其ノ擔任ニ屬スル學科目ニツキ生徒ノ學期成績ヲ考査シテ科目評點ヲ定ム但シ一科目ヲ數人ニテ擔任スルトキハ合議ノ上之ヲ定ム

第三十二條 學年成績ノ科目評點ハ當該科目ノ學期評點ノ和ヲ三除シテ之ヲ定ム

第三十三條 定期試験ハ時間割ヲ定メ當該學期間ニ履修シタル部分ニ就キテ之ヲ行フ但シ學科ノ進度ニ依リ當該學期前ニ履修シタル部分ニ就キテモ之ヲ行フコトアルヘシ

第三十四條 第一學年ノ修身ニ就キテハ前三條ノ規定ニ依ラス第三學期末ニ於テ當該學年ノ成績ヲ考査シ學年成績ニ於ケル科目評點ヲ定ムルコトヲ得

第三十五條 臨時試験ハ平常成績ヲ考査スル必要上擔任教官ノ見込ニヨリ所定ノ授業時間ニ於テ之ヲ行フモノトス

臨時試験ヲ生徒ニ豫告スル場合ハ前以テ學級主任ニ協議シ學級主任ハ之ヲ教務課ニ報告スヘシ

第三十六條 國語漢文中ノ作文、物理化學並ニ植物及動物中ノ實驗及體操ハ試験ヲ行

ハサルコトアルヘシ
第三十七條 生徒ノ席次ハ前學年ノ學年成績ニ據リ卒業席次ハ卒業成績ニ據リ同一學年各科類ニ就キテ之ヲ定ム

第五章 授業料、寄宿舎費

第三十八條 授業料及寄宿舎費ノ徵收期日ハ左ノ如シ

第一學期 自四月十五日 至四月二十一日

第二學期 自九月十五日 至九月二十一日

第三學期 自一月十五日 至一月二十一日

第三十九條 授業料及寄宿舎費ハ前條ノ徵收期日内ニ於テ所定ノ納付書用紙ニ所要ノ事項ヲ記入シタルモノヲ添ヘ現金ヲ以テ會計係ニ納付スヘシ但シ病氣其ノ他ノ事由ニヨリ學校所在地以外ニ在ルモノハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四十條 第三十八條ノ徵收期日後授業料又ハ寄宿舎費納付ノ義務ヲ生シタル者ハ其ノ義務ノ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第四十一條 第三十八條及第四十條ノ徵收期限滿了ノ翌日ヨリ二週日ヲ經過スルモ授業料又ハ寄宿舎費ヲ納付セサル者ハ登校ヲ停止シ尙ホ一週日ヲ經過スルモ之ヲ納付セサル者ハ學則第二十二條第七號ニ據リ之ヲ除名ス

第六章 寄宿舎

第四十二條 寄宿生徒ハ生徒主事ノ指導ノ下ニ秩序ヲ保チ風紀ヲ維持スヘシ

第四十三條 各室人員ノ配當ハ生徒主事之ヲ定ム

第四十四條 寄宿舎内ニ於ケル日課時限ハ校長ノ許可ヲ受ケテ生徒主事之ヲ定ム

第四十五條 寄宿生徒ハ規約ヲ定メ校長ノ認可ヲ經テ之ヲ實行スヘシ規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ

- 一 舎内秩序、整理、風儀ニ關スルコト
- 一 舎内ノ清潔、衛生ニ關スルコト
- 一 炊事其ノ他必要ナル事項

第四十六條 各寮ニ委員四名ヲ置キ任期ヲ一學年トス

委員ハ各寮生徒ノ互選ニヨリ選定セル候補者ニ付キ校長之ヲ命ス

第四十七條 寮委員ハ生徒主事ノ指示ニ從ヒ寮内整理ノ責ニ任シ規約ノ實行ヲ督勵スルモノトス

第四十八條 寄宿生徒歸省、旅行又ハ外泊セントスルトキハ豫メ生徒主事ノ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 各室備付ノ器具及電燈ハ許可ナクシテ他ニ移動又ハ模様替ヲナスヘカラス
第五十條 備付ノ器具又ハ電燈ヲ毀損シ又ハ紛失シタル者ハ之ヲ辨償セシム但シ毀損者又ハ紛失者不明ノトキハ居室ニ屬スルモノハ其ノ室員、共用物ハ各寮生徒又ハ全寮生徒ニ分擔辨償セシム

第五十一條 炊事献立ハ每週、炊事收又決算表ハ毎月生徒主事ニ提出スヘシ

第五十二條 生徒主事ハ常ニ會計事務ヲ監察シ年度末ニ於テ帳簿、金櫃ノ検査ヲ行ヒ其ノ結果ヲ校長ニ報告スヘシ

第五十三條 寄宿舎賄部使用人ノ雇入、解雇ニ關シテハ豫メ生徒主事ノ認諾ヲ經タル後行フヘシ

第五十四條 寄宿舎備付ノ電話機ニテ市外ニ通話ヲナサントスル者ハ寄宿舎當直員ノ許可ヲ受ケタル上所定ノ記入ヲナシ且ツ通話料ヲ支拂フヘシ

第五十五條 火災ノ豫防ニ就テハ各自細心ノ注意ヲ拂ヒ煙草吸殻ノ始末並ニ外出就寢等ノ際ハ火鉢ノ取扱ニ注意スヘシ

第五十六條 非常事變ニ際シテハ寄宿舎當直員ノ指示ニ從ヒ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第七章 服制

第五十七條 授業若ハ儀式ノタメ登校スルトキハ必ス第一種制帽、制服ヲ着用シ靴ヲ穿ツヘシ但シ脚絆ハ必要ノ場合指示ニヨリ着用スヘシ

第五十八條 夏服用期間ハ五月一日ヨリ十月十五日迄トス但シ時宜ニ依リ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五十九條 夏服用期間ニ於テハ儀式ノ場合、體操ノ授業ヲ受クル場合及特ニ指定シタル場合ノ外ハ第二種制帽ヲ着用スルコトヲ得

第六十條 已ムヲ得サル事由ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ記シ届出ツヘシ

第六十一條 外出ノ際ハ成ルヘク制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スルトキハ必ス袴及制帽ヲ著クヘシ

第六十二條 新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ其ノ年ノ五月十日マテ制服着用ヲ猶豫ス第六十三條 生徒ハ防寒用トシテ左記様式ノ『マント』ヲ使用スルコトヲ得

制式 普通

品質 羅紗、襟ニ『ピロイド』毛皮等ヲ附セサルモノ

色 黒又ハ濃紺、表裏同色

第八章 圖書

第六十四條 書庫所藏ノ圖書ハ圖書課掛員ノ外出納ヲナスコトヲ得ス

第六十五條 教官ハ掛員ニ通知ノ上書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六十六條 職員ニシテ圖書ヲ借受ケントスルトキハ自ラ圖書課ニ就キテ所定ノ用紙ニ所要事項ヲ記入シ捺印ノ上掛員ニ差出スヘシ借受ケタル圖書ハ轉貸スヘカラス

第六十七條 貴重圖書類並ニ閱覽室備付ニ缺クヘカラサル圖書及同一ノ圖書二部以上ハ之ヲ借受クルコトヲ得ス

第六十八條 教官ハ一員二十冊其ノ他ノ職員ハ一員六冊ヲ限リ圖書ヲ借受クルコトヲ得但シ和漢裝釘ノ圖書ハ右ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得又完冊ヲナササル雜誌ハ十二部ヲ以テ一冊ト見做ス

第六十九條 借受ケタル圖書ハ毎年七月一日マテニ全部返納スヘシ但シ時宜ニヨリ臨

時返納セシムルコトアルヘシ

第七十條 借受ケタル圖書ヲ毀損若ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ代
品ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第七十一條 學則第五十八條ニヨリ特別ノ場所ニ備付ケタル圖書監守ニツキテハ當該
場所物品監守者其ノ責ニ任スヘキモノトス

第七十二條 生徒圖書閱覽ノ證トシテ閱覽票ヲ設ケ毎學年ノ始メ圖書課ニ於テ之ヲ交
付ス

第七十三條 閱覽票ハ他ニ轉貸スヘカラス若シ之ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ速ニ其
ノ旨圖書課ニ届出ツヘシ

第七十四條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ所定ノ用紙ニ所要事項ヲ記入シ閱覽票ヲ添ヘ
テ掛員ニ差出スヘシ

第七十五條 閱覽シ終リタル圖書ハ直ニ返納スヘシ閱覽室以外ニ圖書ヲ携出スヘカラ
ス

第七十六條 生徒ハ一時ニ六冊ヲ限リ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得但シ和漢裝釘ノ圖書ハ
其ノ冊數ヲ倍加スルコトヲ得

第七十七條 本校職員生徒ニアラスシテ圖書ヲ閱覽スル者ニ對シテハ圖書特別閱覽票
ヲ交付ス

第七十八條 學則第五十六條ニヨリ圖書ノ保管ヲ委托セントスル者ハ其ノ圖書名、

著、譯、編者名、裝釘別、冊數及見積價格ヲ具シ委托期限ヲ定メテ校長ノ承認ヲ受
クヘシ

第七十九條 委托圖書ハ委托者ニ於テ之ヲ本校ニ送致スヘシ
本校ハ之ニ對シテ受領證ヲ交付ス

第八十條 委托圖書ハ書庫以外ニ備付タルコトヲ得ス

第八十一條 不慮ノ災難ニ因リ委托圖書ノ損亡ヲ來ス事アルモ本校ハ其ノ責ニ任セス

第八十二條 他ヨリ委托又ハ借入レタル圖書ハ本校所藏ノ圖書ト同様ノ取扱ヲナス
但シ圖書所有者ノ希望ニヨリ特別ノ取扱ヲナスコトアルヘシ

第八十三條 閱覽室ハ學則第六條ノ定期休業日及臨時休業日ニハ之ヲ閉鎖ス
前項ノ外臨時ニ閉室スルコトアルヘシ

第八十四條 閱覽室ニ入ル者ハ左ノ條項ヲ嚴守スヘシ
一 喫煙、音讀、雜談等他人ノ障礙トナル舉動ヲナスヘカラス

一 圖書文具類ヲ除ク外物品ヲ携帯スヘカラス
一 制服又ハ袴ヲ着用シ脱帽スヘシ
第八十五條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ圖書ノ閱覽ヲ禁スルコトアルヘシ

二 生徒心得細則

- 第一條 生徒ハ本校職員ニ對シテ敬禮ヲ行フヘシ
- 第二條 教室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮スヘシ
- 第三條 教室其ノ他室内ニ入ルトキハ帽及「マント」ヲ脱スヘシ
- 第四條 受持教官教授時間ニ至ルモ出勤ナキトキハ教務課ニ就キテ指示ヲ受クヘシ
- 第五條 生徒ハ風儀ヲ紊ス虞アル場所ニ出入スヘカラス
- 第六條 校内ニアリテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食又ハ喫煙スヘカラス
- 第七條 諸揭示ハ其ノ當日ヨリ一般ニ知了セルモノト認ムルニヨリ常ニ之ニ注意スヘシ
- 第八條 生徒揭示ヲ爲サントスルトキハ生徒主事ノ許可ヲ受ケ檢印ヲ求メ所定ノ場所ニ公示スヘシ
- 但シ校友會ニ關スルモノハ豫メ部長ノ承認ヲ受クルヲ要ス
- 第九條 總テ會ヲ組織セントスルトキハ校長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ解散シタルトキハ直ニ届出ツヘシ
- 第十條 生徒集會ヲ催サントスルトキハ代表者ヲ定メ三日前マテニ其ノ詳細ヲ生徒主事ニ申出テ指示ヲ受クヘシ
- 第十一條 集會ニ本校校舍ヲ使用セントスルトキハ教務課長ニ申出テ指示ヲ受クヘシ

第十二條 火災其ノ他異變ノ際ハ直ニ登校シ職員ノ指示ヲ受クヘシ

三 服務及處務細則

第一章 教官ノ服務

- 第一條 本細則ニ於テ教官ト稱スルハ教授、生徒主事、助教授、講師及傭外國人教師ヲ包含ス
- 第二條 教官ハ其ノ分擔ノ範圍内ニ於テ校長ニ對シ生徒教育ノ責ニ任ス
- 第三條 生徒ノ教育ニ關スル事務ハ各教官ノ擔任トス
- 第四條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ學科主任、學級主任、指導教官及分課ノ事務ニ従事スヘシ
- 第五條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ入學者選抜試験、高等學校高等科學力檢定試験其ノ他臨時ノ事務ニ従事スヘシ
- 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ物品ノ檢閲、物品ノ監守及監守物品ノ屬スル區域内整理ノ任ニ當ルヘシ
- 第七條 教官ハ教授、訓育其ノ他學校ノ利害ニ關係アル事項ニ就キ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ
- 第八條 教官ハ校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ報酬ノ有無ヲ問ハス他ノ職務ニ従事

スルコトヲ得ス

第九條 第二章第十二條乃至第二十二條ノ規定ハ之ヲ教官ノ服務ニ準用ス

第二章 事務員ノ服務

第十條 書記、生徒主事補及雇員ハ校長ノ命ニヨリ所屬課長（又ハ係長）ノ指揮ヲ受ケテ分課事務ニ従事スヘシ

雇員ニシテ特別教室ニ勤務セル者ハ當該教官ノ指揮ヲ受ケテ執務スヘシ

第十一條 事務員ハ各課ノ連絡及相互ノ補助ニ留意スヘシ

事務繁劇ナルトキ若ハ至急處理スルモノアルトキハ執務時間外又ハ休日ト雖モ執務スヘシ

第十二條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ出勤スルコト能ハサル時ハ當日執務時限前ニ其ノ事由及日時ヲ記シテ届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十三條 執務時間中發病等ノタメ退出セントスルトキハ上官ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條 父母ノ祭日ニ休暇ヲ要スルモノ及内規ニヨリ休暇ヲ受ケレトスルモノハ前日中ニ届出ツヘシ

第十五條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ父母ノ墓參ノタメ請暇セントスル者ハ日限及行先地ヲ記シテ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十六條 親屬ノ喪ニ邁ヒ服忌ヲ受クトキハ其ノ親屬關係ヲ記シ届出ツヘシ

第十七條

賜暇中旅行セントスル者ハ日限及旅行先地ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ
陸軍召集令又ハ海軍召集條例ニヨリ召集又ハ簡閱点呼ニ應スル者ハ日限及應召地、部隊、艦艇名等ヲ記シ出發前ニ届出ツヘシ

第十八條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發及歸校ノ際其ノ旨届出テ且ツ歸校後五日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ

但シ簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十九條 新任者ハ五日以内ニ住所ヲ届出ツヘシ

原籍氏名住所等ヲ變更シタル場合ハ其ノ都度届出ツヘシ

第二十條 官廳其ノ他ヨリ本校ヲ經由セスシテ辭令書ヲ受ケ其ノ事項ノ履歷ニ關係アルモノハ其ノ都度届出ツヘシ

第二十一條 轉任免官休職等ノ際又ハ分課事務ヲ免セラレタルトキハ取扱事務ニ關スル書類及物品ノ引繼ヲナスヘシ

第二十二條 非常事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ事急ヲ要スルトキハ當直及登校者ニ於テ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第三章 學校醫ノ服務

第二十三條 學校醫ハ校長ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ従事ス

第二十四條 學校醫ハ毎月二回教授時間内ニ登校シ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ

第二十五條 學校醫ハ校内又ハ其ノ近傍ニ傳染病發生シタルトキハ直ニ必要ナル消毒

豫防方法ヲ施行シ尙ホ其ノ情况ニヨリ校舍又ハ寄宿舎ノ全部若ハ一部ノ閉鎖又ハ遮斷ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ校長ニ申告スヘシ

第二十六條 學校醫ハ生徒ノ請求ニ應シ學校ニ差出スヘキ診斷書ヲ作製スヘシ

第二十七條 學校醫ハ學生生徒兒童身體檢査規程ニヨリ生徒ノ身體ヲ檢査シ身體檢査表ヲ調製スヘシ

第二十八條 學校醫ハ前各條ノ任務ノ外校長ヨリ請求アリタルトキハ隨時生徒ノ身體ヲ檢査シ病症ヲ診斷シ其ノ他衛生ニ關スル事務ヲ執ルヘシ

第二十九條 學校醫ハ學校衛生上必要ト認メタル事項ニツキテ校長ニ申告スヘシ

第四章 教育事務

第三十條 校長ノ指揮ヲ承ケ教育事務ヲ總理スルタメ教頭ヲ置ク教頭ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス

第三十一條 各教官ノ擔任スヘキ教育事務概ネ左ノ如シ

- 一 生徒ノ學業成績ヲ考査スルコト
- 一 生徒ノ勤惰ヲ調査スルコト
- 一 生徒ノ操行ヲ調査スルコト
- 一 教室内ノ秩序ヲ保持スルコト
- 一 教育上ニ關シ校務上必要ナル報告ヲナスコト
- 一 生徒ノ研究ヲ指導シ又ハ監督ヲナスコト

一 其ノ他生徒ノ教育ニ關係アル一切ノ事項

第三十二條 教授ニ關スル事務ハ學科毎ニ當該教官ノ分擔トシ教務課長ヲシテ之ヲ主掌セシム

教務課長ハ教授上ノ事項ニ就キ關係教官ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第三十三條 訓育ニ關スル事項ハ全教官ノ擔任トシ生徒主事ヲシテ之ヲ主掌セシム生徒主事ハ訓育ニ關スル事項ニ就キ關係教官ノ協議會ヲ開クコトヲ得

第三十四條 學科主任ハ左ノ學科ニ就キ各一人トシ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス

第一 文學科 (修身、哲學概説、心理及論理、法制及經濟)

第二 文學科 (國語、漢文)

第三 文學科 (英語)

第四 文學科 (獨語)

第五 文學科 (歷史、地理)

第一 理學科 (數學、圖書)

第二 理學科 (物理)

第三 理學科 (化學)

第四 理學科 (自然科學、植物及動物、礦物及地質)

體操科

第三十五條 學科主任ノ擔任事項概ネ左ノ如シ

一 當該學科教授上ノ統一及他學科トノ連絡ニ關スルコト

- 一 教科用圖書豫選ニ關スルコト
- 一 教授分擔ニ關スルコト
- 一 教授上必要ナル參考圖書、器具、機械、標本、藥品等ヲ調査スルコト
- 一 其ノ他當該學科ニ關スルコト
- 第三十六條 學科主任ハ校長ノ許可ヲ受ケ前條ニ掲クル事務ノ一部ヲ擔任教官ニ委任スルコトヲ得
- 第三十七條 學級主任ハ各學級一人トシ教官中ニ就キ校長之ヲ命ス
- 第三十八條 學級主任ハ生徒主事及指導教官ト連絡シテ當該學級生徒ヲ監督シ之ヲ統率シテ校規命令ヲ實行セシメ風紀ヲ維持シ學德ノ向上發展ニカムルモノトス
- 第三十九條 學級主任ノ擔任事項概ネ左ノ如シ
 - 一 擔任學級生徒ノ操行ニ關スルコト
 - 一 擔任學級生徒ノ勤惰ニ關スルコト
 - 一 擔任學級生徒ノ學業ニ關スルコト
 - 一 其ノ他擔任學級ニ關スル一切ノ事項
- 第四十條 學級主任ノ任期ハ一學年間トス
- 第四十一條 指導教官ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命シ全生徒ヲシテ之ニ分屬セシム但シ生徒又ハ父兄ニ於テ特別ノ希望ヲ申出ツルコトヲ得
- 第四十二條 指導教官ハ生徒主事及學級主任ト連絡シテ擔任生徒ノ品行學業健康其ノ

他一身上ニ關シ在學中絶エス指導監督ヲ加ヘ生徒ヲシテ其ノ本分ヲ完フセシメンコトヲ期スヘシ

第四十三條 指導教官ハ凡テ其ノ擔任生徒ヨリ本校ニ差出ス願届書ヲ審査スヘシ

第四十四條 指導教官ノ任期ハ擔任生徒在學中トス

第五章 分課事務

第四十五條 本校ニ教務課、生徒課、圖書課、庶務課及會計係ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第四十六條 課ニ課長、係ニ係長ヲ置キ所屬職員ヲ率ヒ分掌事務整理ノ責ニ任セシム課長及係長ハ職員中ニ就キ校長之ヲ命ス

第四十七條 分課所屬ノ職員ハ課長又ハ係長ノ指揮ヲ受ケ事務ニ従事ス但シ生徒課勤務生徒主事ノ勤務ニ關シテハ本條ノ規定ニ拘ハラズ別ニ通達シタル所ニ據ル

第四十八條 教務課主管事務左ノ如シ

- 一 學科課程、教授要目ニ關スルコト
- 一 教官ノ擔任、日課ノ配當ニ關スルコト
- 一 學級編成ニ關スルコト
- 一 學級主任、級總代ニ關スルコト
- 一 教科用圖書ニ關スルコト
- 一 授業、休業ニ關スルコト

- 一 生徒募集入學ニ關スルコト
 - 一 選拔試験ニ關スルコト
 - 一 教授上ノ設備ニ關スルコト
 - 一 成績考査、修了、卒業ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ學籍簿、出席簿ニ關スルコト
 - 一 成績表、成績証明ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ休學、退學、除名ニ關スルコト
 - 一 在學証明兵役ニ關スルコト
 - 一 野外演習、射擊演習、修學旅行ニ關スルコト
 - 一 教務上ノ統計ニ關スルコト
 - 一 學力檢定及教員無試驗檢定願ニ關スルコト
 - 一 卒業生ノ大學入學其ノ他ニ關スル事項
 - 一 教官會議ニ關スルコト
 - 一 參觀人ノ取扱ニ關スルコト
 - 一 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項
- 第四十九條 生徒課ノ主管事務左ノ如シ
- 一 生徒ノ訓育、風紀ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ管理、監督ニ關スルコト

- 一 生徒ノ缺席、缺課、遲刻及其ノ統計ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ訓誨、懲戒ニ關スルコト
 - 一 指導教官ニ關スルコト
 - 一 學校衛生ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ保健、身體檢査ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ体育、運動、競技ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ集會ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ揭示ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ通學、宿舍ニ關スルコト
 - 一 生徒ノ入舍、退舍ニ關スルコト
 - 一 寮務當直ニ關スルコト
 - 一 寄宿舍ノ管理、警備ニ關スルコト
 - 一 其ノ他生徒ノ訓育、管理及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項
- 第五十條 圖書課主管事務左ノ如シ
- 一 圖書ノ保存、整理ニ關スルコト
 - 一 圖書印ノ管守ニ關スルコト
 - 一 圖書ノ出納、貸付ニ關スルコト
 - 一 圖書目錄ニ關スルコト

一 圖書ノ購入修繕ノ計劃ニ關スルコト
一 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第五十一條 庶務課主管事務左ノ如シ

- 一 御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト
- 一 校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
- 一 職員ノ進退、身分、服務ニ關スルコト
- 一 職員ノ敘位、敘勳並ニ陞等ニ關スルコト
- 一 職員ノ願、伺、届ニ關スルコト
- 一 規則命令ニ關スルコト
- 一 統計及學校一覽ニ關スルコト
- 一 官報報告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
- 一 文書ノ接受、發送ニ關スルコト
- 一 文書ノ整理、保存ニ關スルコト
- 一 儀式ニ關スルコト
- 一 事務當直ニ關スルコト
- 一 日誌及重要事項ノ記錄ニ關スルコト
- 一 其ノ他他課ニ屬セサル一切ノ事項

第五十二條 會計係主管事務左ノ如シ

- 一 歳入歳出豫算決算ニ關スルコト
 - 一 國有財産、資金ニ關スルコト
 - 一 物品ノ買入及不用物品ノ處分ニ關スルコト
 - 一 修繕ニ關スルコト
 - 一 物品ノ出納、保管ニ關スルコト
 - 一 會計検査ニ關スルコト
 - 一 物品検査ニ關スルコト
 - 一 寄附ニ關スルコト
 - 一 電話、電燈瓦斯、給水及煖房ニ關スルコト
 - 一 校舎内外ノ警備、掃除ニ關スルコト
 - 一 傭人ノ進退及取締ニ關スルコト
 - 一 其ノ他會計ニ任スル一切ノ事項
- 第五十三條 各課ノ主管事項ニシテ他課ニ關聯スルモノニ就テハ關係各課合議ノ上之ヲ處理スヘシ
- 第五十四條 各課所屬ノ職員ハ常務ノ外時宜ニヨリ他課ノ事務ヲ補助スヘシ

第六章 文書處理

第五十五條 公文書ハ第六十二條ニ依ルモノノ外總テ庶務課ニ於テ接受シ受付簿ニ登記シ文書ニ番號及收受月日ヲ記載シ校長宛ノモノハ校長ニ供閱ノ後其ノ他ノモノハ

直ニ主掌分課ニ配付シ其ノ證印ヲ徴スヘシ

第五十六條 親展書ハ封緘ノ儘宛名ニ配付スヘシ

第五十七條 校長ヨリ直接受クル到達文書ハ庶務課ニ於テ受付簿ニ登記スヘシ

第五十八條 各課ニ關聯スル文書ハ其ノ關係ノ重キキ從ヒ之ヲ配付スヘシ

第五十九條 配付ヲ受ケタル文書ハ速ニ之ヲ調査シ處分案ヲ提出スヘシ

事件ノ種類ニヨリ直ニ處分案ヲ提出スル能ハス又ハ處分ヲ要セスト認ムルトキハ校長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第六十條 決裁ヲ受クヘキ文書ニシテ他課ニ關聯スルモノハ該課ニ合議スヘシ

第六十一條 決裁済ノ文書ハ主掌分課ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ處理スヘシ

第六十二條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直ニ接受スヘシ

一 教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類

一 生徒ヨリ提出スル願屆書類

一 入學志願者名票

一 其ノ他校長ノ指定シタル書類

第六十三條 發送ヲ要スル文書ハ庶務課ニ廻付スヘシ但シ執務時間以外ニ發送スル文書アルトキハ當直ニ廻付スヘシ

第六十四條 庶務課ニ於テ發送スヘキ文書ヲ受ケタルトキハ發送簿ニ件名ヲ登記シ發送文書及原議ニ番號ヲ附シ發送スヘシ

第六十五條 庶務課ニ於テ郵便電信ヲ發送スルトキハ月日、受信先、發信名、種類量

目(字數) 料金ヲ登記シ取扱主任檢印スヘシ

第六十六條 完結文書ニシテ各分課ニ保存スヘキモノヲ除ク外ハ總テ庶務課ニ廻付スヘシ

前項ニ依リ廻付ヲ受ケタル文書ハ庶務課ニ於テ編纂シ之ヲ保存スヘシ
各分課ニ保存スヘキ文書ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 當直

第六十七條 當直勤務ハ事務當直及寮務當直トス

事務當直ハ判任官以下輪番ヲ以テ之ニ服スヘシ

寮務當直ハ生徒課勤務ノ教官輪番ヲ以テ之ニ服スヘシ

第六十八條 本校ニ高等官ノ當直ヲ必要ト認ムル場合ニハ校長特ニ之ヲ命ス

第六十九條 生徒主事ハ必要ニ應シ隨時寄宿舎ニ當直スヘシ此ノ場合ニ於テハ第六十七條第三項ノ當直ヲ除番ス

第七十條 當直時間左ノ如シ

一 平日ハ退出時限ヨリ翌日ノ登校時限マテ

二 休日ハ平日ノ登校時限ヨリ翌日ノ登校時限マテ

第七十一條 當直者ハ勤務中學校ヲ離ル、コトヲ得ス

第七十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當直ヲ免ス

- 一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中並ニ其前日及翌日
- 二 病氣ノタメ本務ヲ缺ク者ハ缺勤ノ當日
- 三 賜暇ノ當日
- 四 忌引中
- 五 新任者着任ノ日ヨリ起算シテ七日間
- 六 以上ノ外校長ニ於テ除番スヘキ必要アリト認メタル者
- 第七十三條 前條ニ依リ除番スル者アルトキハ所定ノ當直順ハ順次之ヲ繰上ク
- 第七十四條 當直者自己ノ都合ニ依リ當直スルコト能ハサルトキハ事務當直ニアリテハ庶務課長、寮務當直ニアリテハ生徒課長ノ指示ヲ受クヘシ
- 第七十五條 事務當直ノ任務概ネ左ノ如シ
 - 一 聖影奉安所及校舎各室ノ鎖鑰ヲ管守スルコト
 - 二 巡視、小使等ノ監督並ニ學校内外一切ノ取締ヲナスコト
 - 三 接受物件ヲ處理スルコト
 - 四 火器及火災ノ虞アル場所ニ對シ特ニ注意スルコト
 - 五 當直日誌ヲ記入シ當直用郵便切手ヲ管守スルコト
- 第七十六條 寮務當直ハ寄宿舎及寄宿生徒ノ管理及取締ニ任シ寄宿舎内一切ノ事務ヲ執ルヘシ
- 第七十七條 當直日誌ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 當直年月日並ニ當直者ノ官職氏名捺印
- 二 巡視、小使等ノ當直者氏名
- 三 當直勤務中ノ狀況
- 四 收受、發送文書及物件ハ其ノ宛名、差出人名、使用郵便切手類ノ種類及員數等
- 五 其ノ他當直中處理シタル重要事項
- 第七十八條 當直日誌ハ翌日庶務課長若ハ生徒課長ヲ經テ校長ノ査閱ニ供スヘシ
- 第七十九條 當直中接受シタル文書ハ其ノ儘之ヲ留置キ翌日之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ但シ電報其ノ他急速ノ處理ヲ要スル文書、物件ハ直ニ名宛人ニ送附又ハ通知其ノ他適當ノ處理ヲナスヘシ
- 第八十條 當直者ハ其ノ任務ニ關シ互ニ助力ヲ求ムルコトヲ得
- 第八十一條 當直中出火、近火、風水、震災、盜難其ノ他非常ノ異變アリタルトキハ校長ニ急報シ且狀況ニ應シ臨機ノ處置ヲナスヘシ
- 第八十二條 當直ノ服務ニ關スル細目ハ事務當直ニアリテハ庶務課長、寮務當直ニアリテハ生徒課長之ヲ定ムヘシ

四 物品會計規程細則

第一條 物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ之ヲ處理ス

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ、區別ハ其ノ性質及用法ニ依リ校長之ヲ定ム

第三條 備品中、共用ニ使用スルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ専用スルモノヲ専用備品トス

第四條 各課、係又ハ特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ使用物品ノ監守及取扱ノ責ニ任セシム但シ専用物品ニ就テハ專用者其ノ責ニ任スヘシ

第五條 各課、係又ハ特別教室ノ物品監守者又ハ物品取扱主任ノ監守シ又ハ取扱フヘキ物品ノ所屬區域ヲ左記ノ通り定ム

一 會計係 校長室、講堂、應接室、會計係、宿直室、巡視詰所、小使室ニ屬スル物品並他ノ監守又ハ取扱ニ屬セサル物品

一 庶務課 庶務課ニ屬スル物品

一 教務課 教務課、教官室、普通教室ニ屬スル物品

一 生徒課 寄宿舎及附屬建物、生徒課、生徒集會所、生徒控所ニ屬スル物品

一 圖書課 圖書課、書庫及閱覽室ニ屬スル物品

一 物理學教室 物理學教室ニ屬スル物品

一 化學教室 化學教室ニ屬スル物品

一 植物及動物學教室 植物及動物學教室ニ屬スル物品

一 礦物及地質學教室 礦物及地質學教室ニ屬スル物品

一 歷史地理教室 歷史地理教室及陳列室ニ屬スル物品

一 圖書教室 圖書教室ニ屬スル物品

一 心理數學教室 心理、數學教室ニ屬スル物品

一 體操教室 銃器室及柔劍弓道道場ニ屬スル物並屋外運動場、其ノ他ニアル體操用、運動用器具

第六條 物品出納命令ハ校長之ヲ發シ、其ノ出納ハ物品會計官吏之ヲ執行スヘシ

第七條 通常所要ノ物品ハ物品會計官吏一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ校長ノ許可ヲ受ケテ一回又ハ數回ニ取纏メテ購入シ、之ヲ倉庫ニ藏置シテ保管ノ責ニ任シ臨時所要ノ物品ニ就テハ必要ノ都度校長ノ許可ヲ受ケテ之ヲ購入シ請求ニ應ジテ支給ノ手續ヲナスヘシ但シ器具、機械、實驗用材料等特種ノ注意ヲ要スルモノニ付テハ便宜上各部ニ於テ見積書ヲ徵シ、請求書ト共ニ之ヲ物品會計官吏ニ差出スヘシ

第八條 物品會計官吏前條物品ノ交付ヲナサントスルトキハ備品ハ總テ物品監守者ニ消耗品ハ物品取扱主任ニ交付シ領收印ヲ徵スヘシ

第九條 各部ニ於テ使用スル物品ニシテ不用ニ歸シタルモノアルトキハ物品監守者又ハ取扱主任ハ速ニ物品會計官吏ヘ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ保管シ使用ノ見込ナキモノハ處分案ヲ具シテ校長ノ裁決ヲ受クヘシ

第十一條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ其ノ事實

ヲ詳記シ物品會計官吏ニ報告スヘシ

物品會計官吏ハ之ヲ調査シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十二條 自然破損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者、後任者立會ノ上引

繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記入シ双方記名捺印スヘシ

第十四條 物品會計官吏ハ毎年一回以上物品監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現

品トヲ對照査閲シ狀況ヲ校長ニ報告スヘシ、前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失、毀損ヲ

發見シ又ハ物品ノ監守又ハ取扱上異狀ヲ認メタル時ハ校長ニ申告シ其ノ處理ヲ求ム

ヘシ

第十五條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ナラシムル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ整理

スヘシ

一 備品出納簿

本簿ハ器具、機械、標本、圖書ニ分類シ、品目、數量、價格、納入、渡シ先等

ヲ記シ其ノ出納ヲ明瞭ニスルモノトス、但シ機械、標本ハ各學科別ニ圖書ハ部

門毎ニ口座ヲ設クヘシ

二 消耗品出納簿

本簿ハ消耗品ノ品目、數量、價格、納入、渡シ先等ヲ記シ其ノ出納ヲ明瞭ニス

ルモノトス

三 備品支給簿

本簿ハ命令文書ニ基キ支給シタル備品ノ品目、數量、番號、受授年月日等ヲ記

シ、物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用者トノ受授ヲ明カニスルモノトス

四 消耗品支給簿

本簿ハ支給シタル消耗品ノ品目、數量、受授年月日等ヲ登記シ物品會計官吏ト

物品取扱主任トノ受授ヲ明確ニスルモノトス

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任ハ物品ノ出納保管ヲ明カニスルタメ左ノ帳簿

ヲ設クヘシ

一 備品監守簿

本簿ハ物品監守者之ヲ所持シ備品ノ品目、數量、價格、番號及受授年月日ヲ記

入スルモノトス、但シ圖書、機械、標本ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用スルコトヲ得

一 消耗品受拂簿

本簿ハ物品取扱主任之ヲ所持シ、受領シタル消耗品毎品口座ヲ設ケ受拂ヲ明確

ニスルモノトス

一 郵便切手類受拂簿

本簿ハ文書發送取扱者ニ於テ備付、其ノ受拂ヲ詳記スルモノトス

第十七條 物品檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二種トス、定期檢閲ハ毎年一回之ヲ施行シ

臨時檢閲ハ必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ施行ス

第十八條 物品檢閲委員ハ委員長一名、委員若干名トシ職員中ヨリ校長之ヲ命ス

第十九條 物品檢閲ノ期日ハ校長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ通告スルセノトス

第二十條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ要項左ノ如シ

一、物品保管ノ適否

一、物品亡失、毀損ノ有無

一、物品ノ使用並ニ消費ノ適否

一、帳簿ト現品トノ對照

一、其ノ他必要ト認メタル事項

第二十一條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏、使用中ノ物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任檢閲委員ノ質問ニ應シ物品及帳簿ノ点檢ヲ受クヘシ

第二十二條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタル時ハ檢閲ノ顛末及意見ヲ具シ、委員長ヨリ校長ニ申告スヘシ

第二十三條 本細則ニヨル諸帳簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第六職員

(昭和九年六月現在)

校長

文學士

金子

子

幹

太

山口

教授

圖書

物理、數學、弓道

礦物及地質、地理、自然科學

法制及經濟

數學

獨語

國語

英語

物理、自然科學

修身(兼)

化學、自然科學

國語及漢文、修身

生徒主事

早	池	清	勸	高	知
菊	下	正	信	大	阪
森	川	一	郎	愛	媛
北	村	敬	夫	愛	媛
山	藤	達	二	助	郎
伊	手	二	郎	助	郎
井	淳	二	郎	助	郎
木	方	二	郎	助	郎
河	路	二	郎	助	郎
行	元	二	郎	助	郎
橋	本	二	郎	助	郎
大	江	二	郎	助	郎

(在外研究中)

哲學概說、獨語	文學士	川	無	邪	鹿兒島
獨語	文學士	川	本	良	岡山
心理及論理、獨語	文學士	安	河	泰	福岡
數學	理學士	鍵	谷	正	山口
英語	文學士	矢	野	萬	山口
英語	文學士	太	田	耕	愛知
植物及動物、自然科學	理學士	大	植	登	大
歷史	文學士	三	原	是	山
歷史、漢文	文學士	植	村	清	山
獨語	文學士	三	好	助	大
化學、自然科學	理學士	澄	谷	三	山
國語	文學士	武	智	雅	廣

生徒主事

(兼)

教授

(兼)

教授

配屬將校

步兵第二十二聯隊附

陸軍步兵中佐	河	合	義	一	愛媛
河	合	義	一	愛媛	
川	畑	思	無	邪	鹿兒島
行	元	豐	圓	愛媛	
文	學士	武	智	雅	廣
文	學士	澄	谷	三	山
文	學士	三	好	助	大
文	學士	三	原	是	山
文	學士	植	村	清	山
文	學士	大	植	登	大
文	學士	太	田	耕	大
文	學士	矢	野	萬	大
文	學士	鍵	谷	正	大
文	學士	安	河	正	大
文	學士	川	本	正	大
文	學士	川	畑	無	大

備外國人教師

(準奏任取扱)

パチエラ、オブ、アーツ

ヨゼフ、ケヨルベル

助教授

(兼)

書記

エーチ、シー、ホワイト 英國

劍道

(兼)

生徒主事補

體操

講

師

(就職順)

中

劍道

(兼)

陸軍歩兵少佐

獨語

講

師

(就職順)

堀

獨語

講

師

(就職順)

相

獨語

講

師

(就職順)

近

獨語

講

師

(就職順)

赤

獨語

講

師

(就職順)

近

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

近

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

芝

獨語

講

師

(就職順)

芝

物品會計官吏

生徒主事補

福井卓愛媛
直木太一岡山
戸田肇愛媛
中原喜一熊本

雇

理學士

土居清愛媛
森野豐次郎愛媛
佐伯政勝愛媛
渡部太郎愛媛
加藤太一郎福岡
井手勉愛媛
中村明愛媛
小川高則愛媛

學校醫

醫學士

本田理雄愛媛

學級主任

醫學博士

重松一誠愛媛
梶原勘一愛媛

文科甲類第三學年
文科乙類第三學年
理科甲類第三學年
理科乙類第三學年
文科甲類第二學年
文科乙類第二學年
理科甲類第二學年
理科乙類第二學年
文科甲類第一學年
文科乙類第一學年
理科甲類第一學年
理科乙類第一學年

教授
木方庸助
川本正良
橋本吉一郎
山本敬一
矢野萬里
三好助三郎
河路甲午郎
大河植登志夫
武智雅一
伊藤達夫
大田耕治
森下正信

學科主任

第一文學科	生徒主事兼	教授	行元
第二文學科	教授	井手	淳二
第三文學科	教授	木方	庸助
第四文學科	教授	伊藤	達夫
第五文學科	教授	三原	是真
第一理學科	教授	山村	敬一
第二理學科	教授	河路	甲午
第三理學科	教授	橋本	吉郎
第四理學科	教授	森下	正信
體操科	配屬將校	河合	義一
教授頭	教授	菊池	清治
教務課	教授	菊池	清治
書記兼助教	雇	中近	藤村
生徒課			

課長	生徒主事兼	教授	行元
教授兼	生徒主事	鍵谷	正豐
助教	助教	赤川	壽太
助教	助教	相原	正一
助教	助教	中	喜一郎
講師	講師	堀家	正
講師	講師	芝	善
生徒主事補兼			
圖書課			
課長	教授	山村	敬一
教授	教授	山田	耕治
書記	書記	戸田	高
雇	雇	小川	高
課長	教授	井手	淳二
教授	教授	佐伯	恒
書記	書記	井手	恒
雇	雇	井手	恒
主任	會計係	福井	卓

物理學教室

書記	直木太一
雇	森野豐次
雇	渡部肇
教授	菊池清治
教授	河路甲午
雇	土居清

化學教室

教授	橋本吉郎
教授	澄谷政勝
雇	佐伯

植物及動物學教室

教授	大植登志夫
雇	加藤太郎

礦物及地質學教室

教授	森下正信
----	------

第七 生徒及卒業者

一、生徒氏名

(四月一—十四日)

◎ハ總代 ○ハ副總代

○文科甲類第三學年

三五人

福山	青景良久	松山	秋田保太郎	早稻田	秋山五郎
德島	山二郎	松山	朝野勉	池田	石川
松山	井上四郎	松山	井上泰逸	松山	大龜進
松山	大西三愛媛	松山	梶原英太郎	松山	門田圭三
東第四	金山眞富山	生野	黒川武大	松山	小島五郎
吳第一	佐竹次郎	宇和島	穴戸清泰	松山	篠崎達夫
松山	菅原秀睦	下關	高林正明	松山	高部勳
三神戶	竹林幸雄	松山	○田中留雄	三島	田原明夫
伊丹	長尾宜兵庫	天王寺	中村治兵衛	岩國	奈良本辰也
高松	西本修吉	洲本	野瀬賢一	德島	福良忠雄
松山	堀家文雄	北野	政治家英作	高水	○村田豐三
高松	安永泰三	今治	矢野博敬	山口	山口

○文科乙類第三學年

三七人

生徒

七五



群山	芥川龍	式愛媛	今治	淺海典男	愛媛	北豫	伊賀上周夫	愛媛
廣第一	石津積	廣島	三豐	浮田延治郎	香川	宮崎	臼井不二男	鹿兒島
今治	扇山忠弘	愛媛	二神戶	岡田隆治	兵庫	延岡	小笠原一郎	愛媛
松山	栗本正典	愛媛	撫養	黒田眞一	徳島	三次	佐久間陽之助	廣島
松山	澤田正典	愛媛	松山	藤原勤	愛媛	松山	柴田芳一	愛媛
松山	曾我進	愛媛	吳第二	城憲太郎	廣島	安房	瀧口左内	千葉
松山	武智功	愛媛	北野	○田中章	奈良	京第二	田中五郎	京都
開成	俵宏	鳥根	二岡山	津川侃	岡山	今治	中川房夫	愛媛
高松	中村正二	香川	京第一	原田寛	岡山	佐伯	平田里巳	大分
小倉	廣木清治	福岡	松山	田嘉博	愛媛	松山	松樹長翁	愛媛
松山	宮内通吉	愛媛	多度津	村岡一郎	香川	宇和島	藥師神志	愛媛
北豫	八島孝一	愛媛	今治	八塚太郎	愛媛	松山	山内數三	愛媛
松山	米谷正美	愛媛						

○理科甲類第三學年

三三人

山口	淺川文一	山口	大連一	○伊藤勝	愛媛	三豐	梅津正雄	山形
住吉	大野和彦	愛知	奉天	城戸仁	鹿兒島	松山	木藤長雄	愛媛
長野	○桑原宏	熊本	松山	小玉洪平	愛媛	松山	坂本公行	愛媛
松山	末松直	愛媛	芝	關小	福岡	尼崎	中馬英二	兵庫
撫養	中西一	徳島	廣第一	西龜篤夫	廣島	松山	野本龜雄	愛媛
高鍋	飛田一夫	宮崎	三神戶	橋本敏秀	兵庫	三島	橋本紀彦	和歌山

松山	伴政康	愛媛	吉田	林明正	愛媛	松山	林喜世茂	愛媛
松山	林正照	愛媛	阿波	藤原正治	大阪	松山	丸尾則文	愛媛
大洲	二神和正	愛媛	住吉	藤原正治	大阪	鳥取	三神義雄	山梨
松山	村上光之助	山口	今治	山本龍雄	愛媛	大川	横山桂三	香川
松山	吉田正	愛媛	萩	吉村貫一	山口	松山	渡邊謙太郎	愛媛

○理科乙類第三學年

三八人

今宮	飯島弘治	栃木	一岡山	大夔高明	岡山	三田	大歳清次	兵庫
高津	大石義朗	岡山	京城	岡崎茂	愛媛	東第七	尾崎進	香川
堺	清川熱	大阪	宇和島	久保弘一郎	愛媛	廣第一	源田良香	廣島
島原	小林矩也	長崎	松山	○近藤厚	愛媛	修道	佐藤正三	廣島
松山	須賀清次郎	愛媛	小野	高瀨亨	兵庫	宇和島	高月陽一	愛媛
三島	高橋金之助	愛媛	虎姫	田附三男	滋賀	松山	玉貫眞幸	愛媛
今治	富田千正	愛媛	松山	中山惠夫	愛媛	廣第一	長野壽仁	廣島
松山	二宮道正	愛媛	尾道	野田誠之	廣島	麻植	平野和雄	徳島
修猷館	古澤潔夫	千葉	高松	細川清一	香川	松山	本田尚	愛媛
長崎	松田正名	長崎	三島	三木匡一	愛媛	今治	水尾晴文	愛媛
吳第一	向井彬	香川	三豐	矢野光夫	香川	東第二	山下一郎	東京
宇和島	山本勇	愛媛	堺	山本公夫	滋賀	和歌山	吉村武	香川
阿波	○吉本三郎	徳島	今治	渡部俊郎	愛媛			

○文科甲類第二學年

三四人

松山	石丸忠富	愛媛	德島	伊良原龍冲	德島	松山	宇都宮弘	愛媛
三豐	大塚勝香川	愛媛	松山	岡本一平	愛媛	松山	門屋方典	愛媛
西條	菅仲太郎	愛媛	宇和島	菊池精二	愛媛	今治	桑江義夫	愛媛
岩國	久利清山口	愛媛	松山	佐伯達也	愛媛	宇和島	酒井新平	愛媛
橫第一	佐藤敬治	千葉	三豐	篠原良治	香川	宇和島	都築俊三郎	愛媛
京第一	寺島平七	京都	新竹	德重孝	鹿兒島	今治	中山茂	愛媛
柏原	長澤一夫	兵庫	今治	羽藤秀利	愛媛	茨木	原高明	愛媛
松山	伴康三郎	愛媛	松山	久岡器	愛媛	高松	廣田三郎	香川
西條	堀武定	愛媛	松山	正岡二	愛媛	北條	三輪學俊	愛媛
松山	村田穆	愛媛	北條	森源	愛媛	津	森永恭三	三重
松山	矢野良三郎	愛媛	北條	八原昌克	愛媛	奉天	山本威	愛媛
鳥取	由谷龍也	鳥取						

○文科乙類第二學年

三六人

京第二	淺井桑三	京都	堺	樺原信一	大阪	松山	伊藤始	愛媛
姫路	稻垣孝正	愛媛	一神戸	奥村龍雄	兵庫	二岡山	小合憲雄	岡山
郡山	川中淳治	奈良	松山	木野内爲博	愛媛	下關	木村圭一	廣島
京城公	金脩桓	朝鮮	津山	久山康	岡山	今治	桑江達夫	愛媛
奈良	小西脩	大阪	宇和島	清水美高	愛媛	松山	杉山正三	愛媛
安房	○鈴木靖	千葉	豐中	住井弘吉	大阪	今宮	關重久	大阪
廣島附	曾我正紀	愛媛	松山	瀧政教明	愛媛	高松	田中正文	香川

○理科甲類第二學年

四三人

松山	筒井康	愛媛	灘	唐原友三郎	兵庫	熱田	中尾新一	愛媛
松山	波木明	愛媛	松山	林正行	愛媛	北條	原正敏	愛媛
今治	檜垣義信	愛媛	松山	東專一郎	愛媛	高松	福成格三	佐賀
三島	藤原茂	愛媛	松山	八木辰三	愛媛	松山	山本昇	愛媛
東筑	吉川秀夫	新潟	北野	吉川康夫	大阪	吉田	和田文男	愛媛
宇和島	赤井哲治	鳥取	住吉	淺川隆平	大阪	今治	藤生三	愛媛
旅順一	芦澤廣三	香川	大分	穴福章臣	大分	一神戸	後勝三	兵庫
今宮	上野義次	大阪	高松	○大西靖彦	香川	大洲	岡田勝郎	愛媛
糸島	萩原正信	福岡	八尾	堅山隆三	大阪	松山	勝田勝郎	愛媛
松山	門屋禮一	愛媛	廣第一	河地正雄	山口	宇和島	久保哲次郎	愛媛
松山	近藤藤	愛媛	長崎	鹽見正策	三重	松山	重川一郎	愛媛
宇和島	東海林義光	愛媛	京第二	島井進三	廣島	松山	鈴木弘	愛媛
松山	曾我美清美	愛媛	松山	○高市利夫	愛媛	松山	鈴木卓三	愛媛
松山	竹尾恒熙	愛媛	高松	都崎正藏	香川	今治	寺町忠夫	愛媛
德島	内藤尚	德島	灘	長坂孝一	愛媛	大洲	二宮道勝	愛媛
東第四	林田達	東京	大邱	福永葆光	廣島	大洲	福居道博	愛媛
京第三	藤田至	三重	松山	藤田敏治	愛媛	橫第一	本間榮一	神奈川
松山	山崎康	愛媛	松山	山本三郎	愛媛	松山	森本	愛媛
松山	山崎勉	愛媛	松山	山本太郎	愛媛	京第一	山本進	滋賀

岸和田 脇田 右馬太郎 大阪

○理科乙類第二學年

三八人

松山	淺田耕也	愛媛	松山	池川重德	愛媛	三島	石川一夫	愛媛
二岡山	石川泰輔	岡山	東第四	伊藤健太郎	東京	小野井上彌	兵庫	
三田	太田實	兵庫	妻	大塚敏佑	宮崎	吳第二	大橋靜	京都
宇和島	奥平一郎	愛媛	宇和島	尾崎志朗	愛媛	沼津	金子藤剛	福岡
宇和島	鹿野秀夫	愛媛	一神戶	簡野正一郎	愛媛	松山	菊地敏行	愛媛
松山	菊野晴二郎	愛媛	鳥取一	木下康民	鳥取	松山	喜安善市	愛媛
宇佐	桐田良人	大分	今宮	日下二郎	大阪	今治	○小林茂雄	愛媛
福山誠	小林良輔	廣島	宇和島	信崎成美	愛媛	今治	○白石忠弘	愛媛
北野	高田英夫	大阪	伊丹	多島順次	兵庫	鳥取一	田中遙	鳥取
高松一	田井又晴	香川	今治	西本通憲	愛媛	廣第一	猫屋田行雄	廣島
松山	野本俊明	愛媛	大川	橋本光博	香川	松山	林章正	愛媛
北野	◎半田順俊	和歌山	西條	向井克彦	大阪	北野	村上正巳	和歌山
松山	守家良一	香川	安房	和頭秀岳	千葉			

○文科甲類第一學年

三〇人

松山	秋富三朋	山口	松山	石川	紜	北野	一色幸雄	大阪
鹿兒二	泉	曉	松山	家木爲則	愛媛	松山	越智惟義	愛媛
西條	越智	傳	吉田	太田弘爾	愛媛	今治	片山允敏	愛媛

○文科乙類第一學年

三〇人

松山	菊池龍一	愛媛	高松	久米頼利	香川	尾道	後藤克巳	廣島
尾道	後藤輝司	廣島	甲陽	住田彌高	岡山	杵築	○高橋武彦	大分
松山	高橋不二雄	愛媛	松山	武智定一	愛媛	松山	田原隆英	愛媛
松山	土屋仁之助	愛媛	三島	永易重時	愛媛	松山	西岡達夫	愛媛
松山	博多一郎	愛媛	今治	廣瀬照一	愛媛	北野	福田貞吉	兵庫
鳳	六人部禾典	大阪	松山	村上大男	愛媛	尾道	村上登木雄	廣島
宇和島	安岡靜長	愛媛	松山	矢野晴夫	愛媛	大洲	山内幸二	愛媛

○理科甲類第一學年

三〇人

和歌山	板坂春夫	和歌山	西條	泉山	德愛媛	三次	井上忠二	廣島
松山	岩田正章	愛媛	津	大島勇	愛知	新義州	川本四郎	愛媛
北野	酒井武男	兵庫	松山	鹽崎秀潤	愛媛	松山	重岡榮一	愛媛
松山	篠崎勝	愛媛	尾道	島田秀雄	埼玉	京城普	全錫淡	朝鮮
一岡山	高田正篤	岡山	松山	武市秀洗	德島	奉天	○得居孝臣	愛媛
灘	戸田拳一	廣島	西條	豊田敏夫	香川	松山	○中川雄一郎	愛媛
松山	中島俊作	愛媛	今治	長島敏洋	愛媛	松山	永富一郎	長崎
松山	西山金次郎	愛媛	松山	別宮雄三郎	愛媛	松山	星野恒雄	愛媛
吳港	水野優三	廣島	松山	宮脇辰雄	愛媛	松山	森野恒雄	愛媛
三豐	森川正藏	香川	三島	森脇辰夫	愛媛	松山	渡部公平	愛媛

忠海	麻布	松山	二神戶	武生	松山	池田	三豐	今治	市岡	松山	三豐	丸龜	松山	東高附	吳第二	松山	松山
廣島	廣島	廣島	兵庫	福井	愛媛	愛媛	愛媛	新潟	奈良	愛媛	京都	香川	香川	香川	長崎	愛媛	愛媛
松山	大洲	廣高附	三島	今治	宇和島	大洲	小倉	千葉	三豐	廣第一	松山	岡崎	鳥取	杵築	北豫	津	京第三
吉田	湊	福原	平井	◎長島	玉井	篠崎	高山	姥名	秋山	廣島	玉野	杉本	齋藤	河野	太田	市村	青木
則良	忠雄	公明	滋二	修	正	廣島	正忠	夫千	博	勉	篤司	文雄	實一	一夫	豐	良三	宜正
愛媛	愛媛	廣島	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	千葉	東京	岡山	兵庫	愛媛	愛媛	大分	愛媛	大阪	京都
福山	千葉	八女	宇和島	鹿原	宇和島	豊岡	廣第一	八尾	佐伯	若松	今治	松山	松山	今治	松山	高松	宇和島
和	山	山	廣	花	土	正	佐	大	和	芳	松	今	今	松	松	高	赤
田	越	本	瀬	島	居	垣	波	谷	泉	野	岡	宮	宮	山	山	松	松
仁	啓	健	一	泰	康	齋	古	辰	三	野	本	長	長	高	重	大	井
廣	司	一	郎	正	德	兵	直	辰	郎	峻	靖	井	井	橋	松	野	上
島	千	福	愛	靜	愛	庫	博	雁	大	郎	次	節	夫	恒	恒	和	野
	葉	岡	媛	岡	媛		島	大	分	郎	明	夫	夫	信	信	夫	和
										愛	愛	愛	愛	愛	愛	愛	愛
										媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛

理科乙類第一學年

三〇人

二、卒業者氏名

(自大正十一年三月至昭和九年三月)

通計千八百六十七人

文科甲類卒業者

- 文科甲類卒業 四八五人
- 文科乙類卒業 四六三人
- 理科甲類卒業 四七一人
- 理科乙類卒業 四四八人

法	文	經	法	法	經	經	法	經	青野	石丸	大西	越智	加藤	島崎	團野	野崎	丸井
經	法	經	法	法	法	法	法	法	龍平	友二	清	圭一	雄一	昌實	藤原	東夫	元治
經	法	經	法	法	法	法	法	法	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛
經	法	經	法	法	法	法	法	法	有吉	鳥賀	岡本	風早	熊本	末永	中山	原	宮
經	法	經	法	法	法	法	法	法	義彌	陽恒	直人	義確	武彦	永術	山虎	原	原
經	法	經	法	法	法	法	法	法	東京	京都	廣島	宮崎	東京	廣島	香川	岡山	岡山
經	法	經	法	法	法	法	法	法	池田	宇都宮	小國	香西	高西	高見	西田	增田	箭野
經	法	經	法	法	法	法	法	法	忠康	豐三郎	豐兵衛	久廣	明朝	治明	道夫	浩義	浩三
經	法	經	法	法	法	法	法	法	愛媛	愛媛	兵庫	廣島	廣島	岡山	岡山	愛媛	愛媛
經	法	經	法	法	法	法	法	法	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛

法 屋 葦次郎 岡山
 法 山本 隆夫 和歌山
 法 渡邊 隆治 大分
 法 吉村 恭治 高知

○文科乙類卒業業者 二九人

東 邦彦 兵庫
 上田 一雄 香川
 岡井 彌三郎 愛媛
 鴨川 廣正 愛媛
 下山 四郎 岡山
 田村 三四郎 高知
 濱田 良一 高知
 星野 通 愛媛
 光藤 時太郎 愛媛
 八並 達雄 大分
 石川 英雄 愛媛
 海野 欣也 靜岡
 奧田 英三 京都
 工藤(佐々木)良次 徳島
 角 信雄 京都
 中山 次郎 新潟
 榎田 和泰 愛媛
 松井(荒木)律二 兵庫
 宮内 保雄 愛媛
 山口 立 石川
 井上 氏男 愛媛
 岡(佐伯)碩平 愛媛
 京醫(死)川端 友徳 愛媛
 法 栗山(中村)國定 和歌山
 文 竹村 沖 愛媛
 文 野口 豊茂 愛媛
 東文(退)藤田 實道 愛媛
 經 眞鍋 善雄 香川
 法 森 明 鷹 大分

○理科甲類卒業業者 三四人

相原 賀十郎 愛媛
 大野 唯糊 愛媛
 越智 利夫 愛媛
 廉田 茂 愛媛
 喜安 貞雄 愛媛
 石崎 隣之助 愛媛
 大前 玉男 島根
 落藤 藤吉 廣島
 金光 隆一 大分
 里見 一郎 山梨
 瓜生 六郎 神奈川
 大森 義文 愛媛
 加藤 太志 福岡
 川村 南海男 高知
 史 允 中 支那

清水 進一 愛媛
 田 阪益一 愛媛
 中 矢隆雄 愛媛
 藤 岩根 徳島
 森 田利次 大分
 山 本利夫 大分
 和 田周平 神奈川
 新原 武雄 廣島
 田邊 穰二 山口
 長谷川 良吉 大分
 三並 虎一郎 愛媛
 矢野 稔 愛媛
 山 本利道 高知
 末松 榮 愛媛
 富永 和郎 愛媛
 二神 哲五郎 愛媛
 村上 義一 福岡
 山 崎安介 栃木
 山 本幸夫 大分

○理科乙類卒業業者 二六人

井手 正堂 愛媛
 兒玉(金崎)啓俊 愛媛
 高 島良輝 香川
 鶴 見俊二 愛媛
 西 山義雄 愛媛
 東文(退)島中 香大 愛媛
 松 尾昇 愛媛
 山 下寛三 兵庫
 吉田 寅二郎 岐阜
 大野 博 愛媛
 日下 宗基 徳島
 立 川律三 徳島
 富 山太郎 長野
 野 口雅壽 京都
 堀 好保 香川
 三 好保 香川
 山 縣欽爾 廣島
 割 石憲一 徳島
 工(死)小谷 周一 兵庫
 醫 多田 太朗 廣島
 理 淡中 益郎 愛媛
 農 島居 三朗 山梨
 醫 野本 只勝 愛媛
 醫 益田 學 大分
 醫 八木 勇 兵庫
 醫 博 吉岡 準一郎 香川

○第一二回 (大正十二年三月) 一四六人

○文科甲類卒業業者 三五人

經	天野元之助	大阪
文	岩崎英恭	高知
文	大崎紀鷹	大分
文	河野正通	徳島
法	小松(山根)辰郎	大阪
法	莊司禎四郎	奈良
法	高原富藏	徳島
法	士屋義夫	廣島
法	永井三郎	愛媛
法	萩原敏一	岡山
法	日野英一	愛媛
法	村上幸夫	愛媛
法	石崎金四郎	愛媛
法	潮田秀	千葉
法	加藤榮	愛媛
法	(死)北風武次	和歌山
法	(退)佐伯俊一	愛媛
法	末次晋	島根
法	多木(大谷)万三	兵庫
法	坪内虎三郎	愛媛
法	中村利夫	滋賀
法	橋本亮治郎	岡山
法	本田(田村)實昌	東京
法	渡部肆郎	愛媛
法	井上文夫	神奈川
法	宇高弘三	廣島
法	川口昇	愛媛
法	黒石勝	高知
法	清水次夫	愛媛
法	千家活	廣島
法	伊達良一	愛媛
法	(死)豊田藤彦	岩手
法	乃万文次郎	愛媛
法	濱田忠世	高知
法	本田昇	愛媛

○文科乙類卒業生

三三人

法	青井滋	愛媛
法	石原十郎	廣島
法	京(退)岩田義道	愛媛
法	岡田(禰)香吉	愛媛
法	(死)岡部二郎	愛媛
法	河出(島尾)孝雄	香川
法	久山淳一	岡山
法	上田藤十郎	高知
法	(死)伊藤三四三	愛媛
文	大岡洋吉	和歌山
文	岡田茂二	廣島
文	寛(澤井)忠雄	兵庫
文	韓弼濟	朝鮮
文	黒田禎三	兵庫
法	天野義光	愛媛
法	岩島肇	廣島
法	大橋積	廣島
法	岡野正武	大阪
法	加藤三郎	東京
法	木村駒男	東京
法	杉原斐夫	廣島

法	仙波直心	愛媛
法	仲田包寛	愛媛
法	古田(吉田)清三	東京
法	山口節郎	和歌山
法	中平(山崎)義興	愛媛
法	那波光正	岐阜
法	廣直武夫	香川
法	山本千里	廣島
法	中村利孝	和歌山
法	畑田清之助	京都
法	水沼洲一	愛媛
法	山本幹夫	廣島

○理科甲類卒業生

四三人

工	相原方吉	愛媛
工	(退)井上省三	徳島
理	小川新太郎	愛媛
理	金崎顯彦	愛媛
理	木村一男	廣島
理	黒田(浮穴)稻夫	愛媛
理	澤邊武文	東京
理	宗所勇行	福岡
農	丁所貞吉	愛媛
農	長嶋謙吉	支那
農	福田秀實	島根
農	松本重太郎	愛媛
農	山比直一	高知
農	渡部昌	愛媛
工	相原要之進	愛媛
工	内田洋一	東京
工	越智勇一	愛媛
工	金井重雄	兵庫
工	桑野稔	福岡
工	栗本周六	和歌山
工	清水定次郎	愛媛
工	武田義明	愛媛
工	田中金治	山口
工	友近晋	山口
工	中村道雄	愛媛
工	藤田亮	愛媛
工	山口義登	愛媛
工	秋洲敏次郎	愛媛
工	大野數雄	愛媛
工	影山光一	高知
工	浦浦稔治	高知
工	久保田猛	大阪
工	近藤精一	大阪
工	杉本培吉	高知
工	(死)太字(多)不器男	愛媛
工	張傑	支那
工	中島正	兵庫
工	服部梅治	三重
工	藤原宣之	廣島
工	山本狷吉	石川
工	渡瀬久	香川

○理科乙類卒業業者

三五人

工	秋月光一	和歌山	醫	石原(下島)經德	鹿兒島	醫	上島俊雄	大阪
理	岡現二郎	愛媛	醫	香田德太郎	大阪	醫	九工(死)戒能英一	愛媛
醫(死)	影浦治	愛媛	醫	河野清吾	愛媛	醫	栢原好忠	愛媛
醫	日下隆一	德島	醫博	久保昇華	廣島	醫	黒木政治	宮崎
醫博	近藤東一郎	兵庫	工	近藤(藤田)文次郎	愛媛	醫	佐野(宮崎)梅太郎	兵庫
東醫(死)	澤田好澄	兵庫	工	末光忠一	愛媛	醫	住田恒幸	愛媛
醫(死)	高市俊雄	愛媛	醫	高市道一	愛媛	醫	田村昇	東京
醫博	友田正信	奈良	醫	永井健	愛媛	醫	中井善一郎	大阪
醫	中安周平	神岡	醫	仁木秀臣	德島	工	廣田直憲	兵庫
經	朴永植	朝鮮	醫(死)	又森治	德島	農	丸田(岡本)秀三	和歌山
工	水口(武智)三政	愛媛	醫博	宮嶋淑夫	愛媛	醫	村田明	兵庫
醫	山内奏明	愛媛	醫博	山下秀雄	愛媛			

◎第三回 (大正十三年三月)

一五二人

○文科甲類卒業業者

三九人

法	青井英夫	和歌山	文	天野高信	德島	文	石川眞澄	愛媛
經	石川淑夫	香川	文	乾輝夫	德島	經	上島統一	三重
法(死)	大竹貢	岐阜	文	笠原旭	岡山	經	河合庄司	奈良
文	川又清忠	愛媛	文	木下正雄	愛媛	經	楠本健三	大阪

文	黒瀬忠夫	愛媛	經	後藤治基	愛媛	經	崎山富士太郎	和歌山
文	佐々木和磨	奈良	文	島田道夫	福岡	法	高垣嘉夫	廣島
經	田中一三	廣島	經	玉木俊夫	兵庫	法	土屋利夫	廣島
文	中谷隆道	和歌山	經	中村正作	愛媛	文	西山辰男	兵庫
法(死)	則光貫二	兵庫	經	林(佐々木)四郎	山口	法	久尾啓一	高知
經	福田及之助	大阪	經	藤田友次郎	愛媛	文	二神傳三郎	愛媛
經	松尾進	愛媛	法	宮武秀夫	香川	文	村元尙一	山口
文	森武比虎	福井	文	山内義雄	愛媛	文	山縣正明(二誠)	高知
法	由比光彦	高知	法	吉松康親	宮崎	法	米田正式	愛媛

○文科乙類卒業業者

四二人

法	青山美乘	廣島	經	淺岡一雄	滋賀	法	池田威	愛媛
法	浦本庄之助	福岡	經	岡部隆吉	香川	文	岡本重彦	高知
法	小原克己	愛媛	法	景山誠一	廣島	法	加藤謙二	愛媛
法	河原俊信	岡山	九法文	小西健次郎	廣島	文	佐伯延次郎	愛媛
法	齊藤武雄	廣島	法	坂野常禮	岡山	法	柴田高義	愛媛
法	澁川辰徳	廣島	法	下山常夫	兵庫	法	鈴木厚	愛媛
法	高橋明廣	廣島	法	武田榮吉	東京	法	伊達宗彰	愛媛
法	田所美夫	東京	文	豊島薫	香川	京法(死)	野添慎	愛媛
法	内藤浩二郎	愛媛	文	西村長三	愛媛	經	船木喜一郎	大阪
法	野間稜威男	愛媛	法	濱田健男	大阪	法		

紅谷三郎 愛媛 法 細見健三 兵庫 法 堀田種次郎 大阪 法
 松岡知道 山口 法 水越理人 愛知 法 三好慶朗 愛媛 法
 吉元(三好)眞一 愛媛 法(死) 村上隆二郎 愛媛 法(死) 村上安市 愛媛 法
 森柄宗一 愛媛 法 横山 茨廣島 法(死) 渡邊昇 千葉 法

○理科甲類卒業生 三三人

淺井宇一 大阪 工 綾部 先 兵庫 工 伊地知壯一 東京 工
 猪熊泰三 神奈川 文(死) 大津山 崇 熊本 工 越智通喜男 愛媛 工
 上浦喬 熊本 工 喜多山 胖 愛媛 工 樟本秀樹 兵庫 工
 桑田仁 兵庫 經 黒田廣胤(支) 愛媛 工 上郎 清 神奈川 工
 兒玉幸夫 宮崎 工 小安 高知 理 近藤信興 愛媛 理
 佐々木大策 愛媛 農 土居 丁 高知 法 得能通任 愛媛 法
 中村(山本)總七郎 山口 理 藤澤 信 大分 工 增野正孝 愛媛 工
 松井退藏 愛媛 醫 松浦三郎 兵庫 工 松浦四郎 愛媛 工
 松村忍 兵庫 醫 三舟淳夫 德島 工 村上和祥 愛媛 工
 藥師神榮七 愛媛 文 安賀秀三 大阪 工 山門武 三重 工
 山田寅之助 愛媛 農 王 愷 支那 工 渡部一郎 愛媛 工

○理科乙類卒業生 三三人

上原小太郎 山梨 醫 鶴山義治 奈良 醫 太田 繪 和歌山 醫
 越智幸雄 愛媛 醫 小野崎悌个 岩手 醫 織戸 亨 大分 醫

河上利勝 愛媛 醫 加幡久雄 愛媛 醫 河野克己 愛媛 醫
 夏邦奇 支那 醫 京極佐市 愛媛 醫 酒井源清 高知 醫
 坂本太郎 高知 醫 須賀秀雄 愛媛 醫 關永正 廣島 醫
 高松節治 高知 醫 築山貞利 愛媛 醫 土本重 廣島 醫
 永井十九太郎 愛媛 醫 中村覺郎(正之) 福井 理東工 名須川 渡 岩手 理東工
 南家令四郎 鳥取 工 西岡武徳 德島 醫 延谷不二雄 大分 醫
 早川美智雄 香川 文 原田博明 大阪 工 廣田元太郎 愛媛 工
 藤田喜壽 高知 醫 藤野源三 愛媛 醫 藤本 喜 愛媛 醫
 船橋高信 愛媛 工 星加雅男 愛媛 醫 正岡 旭 廣島 醫
 増田修三 兵庫 工 三谷萬一郎 和歌山 醫 三竝(山本)達夫 愛媛 醫
 山本 昶 高知 工 山本久富 三重 醫

◎第四回 (大正十四年三月) 一三五人

○文科甲類卒業生 三三人

家久 甫 愛媛 法 石川直治 兵庫 經 岩本亮一郎 神奈川 經
 遠藤源太郎 宮城 文 大西輝光 愛媛 文 岡本(山内)千万太郎 愛媛 文
 菅太郎 愛媛 法 窪田篤慶 愛媛 法 幸治烈男 三重 法
 小島政俊 兵庫 經 佐藤 巍 北海道 文 島崎乾太郎 愛媛 文
 須之内徳晴 愛媛 文 高島(石本)權一 高知 文 高田辰雄 山口 文
 龍本良介 三重 法 田中成彦 岐阜 法 玉井恒榮 愛媛 法
 中村清一郎 愛媛 文 永山光生 愛媛 經 新田義人 山口 經

文	野村於蓮	東經(死)白樂	談	朝鮮
法	平木由之	經	平手光雄	大分
法	藤井弘	文	藤直幹	德島
經	森本幸造	法	守谷美苗	愛媛
文	赤木美善	東經	阿部菊一	愛媛
經	今村勤一	文	岡田貫一	香川
文	岡宮自猛	文	大内(野口)優德	愛媛
文	越智通一	文	金子久親	愛媛
文	木村秀夫	法	金子永吉	朝鮮
法	清水省三	法	清水藤弘	愛媛
法	田宮豊治	文	高本謙一	愛媛
法	塚原(井出)滿忠	法	德永友衛	愛媛
法	二神三郎	文	二神輝一郎	愛媛
東文(死)	堀内進	法	眞室亞夫	香川
文	村上長義	經	村田壽	愛媛
文	行元自忍(徹)	法	米村一郎	兵庫

○文科乙類卒業業者

三六人

農	戒能英四郎	工	門田(明智)重一	愛媛
工	菅野源一郎	工	桐本楠雅	大阪
東農(死)	金裕	文	栗谷嘉一	大阪
醫	小室靜	工	菰田太郎	愛媛
經	齊藤清	工	澤山史	德島
農	藤文	工	富山與太郎	愛媛
工	南波辰夫	工	西原清康	福岡
醫	水口俊明	東工	村上吉作	愛媛
理	山崎喜重郎	東工	山田短男	東京
九法文	楊祖論	法文	劉巖	支那
農	戒能英四郎	工	河内日出雄	愛媛
工	菅野源一郎	工	金聖浩	朝鮮
東農(死)	金裕	農	小林正熊	愛媛
醫	小室靜	東理	蔡源明	支那
經	齊藤清	工	武智幸文	愛媛
農	藤文	九(死)	中田爲男	大阪
工	南波辰夫	東農(死)	濱崎久義	廣島
醫	水口俊明	工	森徹	大阪
理	山崎喜重郎	工	山本晃	岡山
九法文	楊祖論	經	渡部新八	愛媛

○理科甲類卒業業者

三三人

理	秋田健次	農	上原(小林)秀雄	香川
理	織田三郎	理	織田三郎	愛媛

○理科乙類卒業業者

三三人

理	天草卯愛媛	醫	天野清愛媛	
醫	井手正英	醫	宇野(武智)晋愛媛	
醫	大野慶文	醫	鬼東悖哉	宮崎
醫	辛島泉鶴	醫	藤本積廣	廣島
工	佐藤慶次	醫	敷地寛	愛媛
醫	清水五郎	醫	島崎眞榮	高知
醫	田岡純次郎	醫	高市孟	愛媛
醫	辻嘉門	醫	都田恒夫	愛媛
醫	松岡義正	醫	松澤達雄	愛媛
理	天草卯愛媛	工	伊藤祐榮	廣島
醫	井手正英	文	江藤(中谷)太郎	廣島
醫	大野慶文	醫	河東洗	愛媛
醫	辛島泉鶴	醫	黒田理	愛媛
工	佐藤慶次	醫	潮見英次郎	愛媛
醫	清水五郎	農	九醫(死)諏訪千春	高知
醫	田岡純次郎	農	立石専三	愛媛
醫	辻嘉門	理	野溝貞史	香川
醫	松岡義正	理	松山英太郎	大阪

醫 村上松壽 愛媛
 醫 山内俊雄 愛媛
 京醫(死) 森川昌之 廣島
 醫 湯淺孝孫 岡山
 醫 矢野(鎌田)實 岡山
 渡部 修 愛媛

◎第五回 (大正十五年三月) 一六五人

◎文科甲類卒業者 四三人

文	文	文	法	法	文	法	經	經	法	文	法	文	文	文
村	眞	藤	林	中	津	末	清	木	謙	小	大	浦	出	青
上	守	平	野	野	田	松	水	下	田	野	本	上	原	野
照	勇	平	一	一	春	松	正	俊	(合)	忍	謙	清	忠	伊
男	哲	炫	郎	郎	二	嫩	男	平	田)謹	一	一	一	夫	雅
愛	實	廣	兵	愛	郎	愛	岐	愛	香	愛	愛	愛	岡	兒
媛	能	島	庫	媛	愛	媛	卓	媛	川	媛	媛	媛	山	媛
文	文	法	法	文	法	經	經	法	文	法	文	文	文	文
丸	益	原	二	東	東	文	文	文	文	文	文	文	文	文
岡	田	二	宮	文	文	庄	金	神	柏	岡	大	稻	秋	秋
秀	慎	俊	一	高	高	司	斗	尾	野	野	垣	勝	山	山
香	雄	彦	郎	田	田	一	憲	庄	辰	榮	三	三	英	文
川	熊	岡	愛	良	良	郎	朝	治	正	三	郎	郎	夫	武
	本	山	媛	崎	崎	支	鮮	愛	媛	廣	石	夫	靜	廣
				那	那	那	城	媛	媛	島	川	岡	岡	島
文	文	法	法	經	法	法	經	經	經	法	文	經	法	法
三	松	廣	野	時	辻	白	公	北	門	越	大	尹	伊	伊
原	本	野	村	永	田	石	莊	岡	岡	智	西	大	藤	藤
信	鶴	潤	一	一	田	健	嘉	嘉	嘉	大	確	西	勝	勝
一	造	定	馬	男	力	次	保	保	保	智	確	確	三	三
	一	一	香	廣	愛	郎	奈	奈	奈	彰	郎	郎	善	善
	和	川	川	島	媛	媛	良	良	良	媛	媛	媛	朝	朝
	歌	川	媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛	媛	朝	朝
	山												鮮	鮮
													阪	阪

◎文科乙類卒業者 三八人

文	文	文	文	文	經	文	文	文	文	文	法	文	文	法
吉	松	平	萩	長	瀧	品	熊	梶	太	稻	青	太	稻	青
田	浦	田	原	坂	本	川	本	田	田	垣	木	田	垣	木
賢	清	善	原	堯	本	柳	本	金	金	(湯)	茂	金	(湯)	茂
次	一	行	堯	堯	輝	之	吉	次	次	次)	雄	次	次)	雄
石	郎	廣	雄	雄	一	助	郎	郎	郎	了	媛	媛	了	媛
川	愛	島	媛	媛	郎	愛	媛	媛	媛	俊	媛	媛	俊	媛
	媛	媛	媛	媛	兵	媛	媛	媛	媛	賀			賀	
					庫	媛	媛	媛	媛					
文	法	法	文	京	法	文	文	文	文	文	法	文	文	法
渡	宮	伏	長	西	築	首	近	久	河	岡	今	淺	今	淺
部	内	見	谷	原	山	藤	藤	山	野	本	泉	野	泉	野
萬	誠	正	場	義	重	重	春	卓	到	薫	輝	道	輝	道
壽	恭	慶	亮	廉	治	忠	文	二	大	大	彦	明	彦	明
太	愛	岡	高	福	愛	媛	媛	岡	分	分	佐	媛	佐	媛
郎	媛	山	知	岡	媛	媛	媛	山	分	分	賀	媛	賀	媛
新														
瀨														
經	法	京	法	文	文	法	經	經	法	法	東	法	法	東
山	前	速	野	友	千	坂	小	金	沖	內	阿	內	阿	阿
本	田	水	本	澤	賀	下	林	義	鳴	田	部	田	部	部
福	武	晃	本	彦	賀	逸	眞	泳	三	俊	達	俊	達	達
次	武	晃	進	昌	賀	雌	太	泳	夫	夫	男	夫	男	男
廣	京	晃	進	昌	賀	宮	郎	朝	分	分	媛	媛	媛	媛
島	都	晃	媛	媛	媛	崎	東	鮮	媛	媛				

◎理科甲類卒業者 四一人

工	農	醫	農	文	文	文	文	文	文	經	文	文	文	法
河	加	戒	阿	吉	松	平	萩	長	瀧	品	熊	梶	太	稻
本	藤	能	部	田	浦	田	原	坂	本	川	本	田	田	垣
勝	正	(山)	雅	賢	清	善	原	堯	本	柳	本	金	金	(湯)
壽	育	田)一	雄	次	一	行	堯	堯	輝	之	吉	次	次)	俊
山	愛	郎)神	媛	石	郎	廣	媛	媛	一	助	媛	媛	媛	媛
口	媛	奈)川	媛	川	愛	島	媛	媛	郎	媛	媛	媛	媛	媛
農	農	工	工	文	法	法	文	京	法	文	文	文	文	法
香	金	香	池	渡	宮	伏	長	西	築	首	近	久	河	岡
坂	井	川	内	部	内	見	谷	原	山	藤	藤	山	野	本
桂	貫	貫	泉	萬	誠	正	場	義	重	重	春	卓	到	薫
吾	彰	一	媛	壽	恭	慶	亮	廉	治	忠	文	二	大	大
媛	媛	媛	媛	太	愛	岡	高	福	愛	媛	媛	岡	分	分
農	文	理	農	經	法	京	法	文	文	法	經	經	法	法
菊	金	加	稻	山	前	速	野	友	千	坂	小	金	沖	內
池	光	藤	荷	本	田	水	本	澤	賀	下	林	義	鳴	田
(二)	敬	太	紀	福	武	晃	進	彦	賀	逸	眞	泳	三	俊
宮)武	叔	郎)福	媛	次	武	晃	進	昌	賀	雌	太	泳	夫	夫
範)媛	岡	岡)媛	媛	廣	京	晃	媛	媛	媛	宮	郎	朝	分	分

工(死)	菊池朝太郎	愛媛	工	小西政徳	大阪	工	城輝之	和歌山
工	關谷紀	愛媛	工	仙波國彦	愛媛	工	添田貫一郎	愛媛
農	竹田一	愛媛	農	中川辰巳	兵庫	農	中津(弘中)哲二	山口
農	橋本義光	愛媛	農	橋本利一	兵庫	農	羽田良禾	廣島
理	本田卯一	大阪	理	正岡幸孝	愛媛	理	眞野誠一	福岡
理	松田憲	愛媛	理	前田正壽	廣島	理	東農(死)松永紀夫	愛媛
理	三好政	愛媛	理	森田孝	愛媛	理	宮田壽直	愛媛
理	山仲幸夫	愛媛	理	和田正弘	廣島	理	山縣千樹	山口
理	吉見亨	廣島	理	和田正弘	廣島	理	吉田(鈴木)道雄	岐阜

○理科乙類卒業生

四三人

醫	淺野純吉	東京	醫	石川金六	香川	醫	宇都宮利雄	愛媛
醫	江崎幸明	香川	醫	越智正一	愛媛	醫	喜多島慎一	岡山
醫	黒田秀隆	岡山	醫	小森誠一	愛媛	醫	近郷獎太郎	富山
醫	近藤幸一	廣島	醫	櫻林郁四郎	山梨	醫	佐々木義孝	廣島
醫	佐藤若松	廣島	醫	杉野佐助	高知	醫	末澤慶久	香川
醫	高田弘	岡山	醫	立川吳郎	愛媛	醫	高松茂實	高知
醫	高本安	愛媛	醫	綱島長年	岡山	醫	玉井元三	愛媛
醫	檀上順三	廣島	醫	仲田史郎	愛媛	醫	壺井忠彦	香川
醫	土門謙三	北海道	醫	仲田史郎	愛媛	醫	中村茂	香川

醫	西川治良兵衛	奈良	醫	西村敏而	廣島	醫	西村(大川)健治	奈良
醫	野口武夫	愛媛	醫	平井邦次	香川	醫	平野四郎	大阪
醫	吹譯卓郎	島根	醫	藤卷一郎	新潟	醫	本野徳一	愛媛
醫	宮本一雄	大阪	醫	森安正	大阪	醫	山田時一	愛媛
醫	俵政三郎	三重	醫	横山和久	廣島	醫	吉崎梧樓	廣島
醫	渡部武	香川	醫	横山和久	廣島	醫	吉崎梧樓	廣島

◎第六回 (昭和二年三月)

一三九人

○文科甲類卒業生

三六人

法	阿部順	山口	文	糸川成辰	廣島	經	梅田正	愛媛
法	奥平昌信	東京	文	小開伊太郎	香川	經	越智卓二	愛媛
法	京文(死)木間頌葉	千葉	文	木村斌	香川	經	小林悟一	兵庫
法	五領田武夫	廣島	文	佐久間常夫	和歌山	經	佐々木史朗	廣島
法	島川巽	愛媛	文	島本鍊二郎	廣島	經	清水哲作	愛媛
法	曾我部(田村)角平	愛媛	文	高岡喜一郎	兵庫	經	清水哲作	愛媛
文	谷野芳輝	大阪	文	中村博進	愛媛	法	高橋宗光	山口
文	中原榮太郎	愛媛	文	廣瀬龜之祐	大阪	法	藤田清	愛媛
文	細谷雄平	香川	文	八木元	愛媛	法	宮本勳	愛媛
法	三好武夫	愛媛	法	吉川元	愛媛	法	矢野嘉	愛媛
法	山口久	京都	法	和田英四郎	大阪	法	吉田喜勝	大阪
文	林松本朝	朝鮮	文	和田英四郎	大阪	文	和田義彦	京都

○文科乙類卒業者

三六人

經	相原經男	愛媛	文	阿部次郎	愛媛	文	淺岡吉雄	滋賀
文	麻生種衛	廣島	文	岡村實山	山口	文	石崎梧郎	愛媛
文	岩崎重太郎	愛媛	法	鎌田家光	兵庫	法	河本定幸	愛媛
法	河本末廣	愛媛	法	窪田(成瀬)岩夫	岐阜	法	岸川大事	岡山
法	清洲正	愛媛	法	神保茂勝	愛媛	法	窪田嘉計	愛媛
東文	佐伯強	愛媛	法	武内義雄	愛媛	法	角谷五兵衛	大阪
法	高橋吉隆	愛媛	法	戸高博	大分	法	田中壽夫	鳥取
法	銅金樓一	廣島	法	名須川浩	岩手	法	富田嘉郎	東京
法	長野虎之助	愛媛	法	日野春重	愛媛	法	原井育爾	東京
法	東本忠俊	大分	法	向居淳郎	愛媛	法	藤田至善	三重
東文	村上平一	大阪	法	山口光彦	愛媛	法	武藤誠	東京
東文	村上一	大阪	法	山田協之助	愛媛	法	米田喜一	奈良

○理科甲類卒業者

三四人

農	菅澤(松原)忠二	香川	農	足立忠清	廣島	醫	井川秀德	愛媛
農	生田助太郎	鳥取	工	石田勝利	京都	醫	今井環	大分
農	印權植	朝鮮	農	尾田左司馬	愛媛	工	小田部巖	大分
法	越智誠一郎	愛媛	農	門田協之助	愛媛	工	門屋見	愛媛

東農	河口義國	愛媛	農	木村弘太郎	岐阜	工	近藤常一	愛媛
理	古武彌人	岡山	醫	小玉龍雄	愛媛	工	薄田重務	愛媛
工	近藤信義	愛媛	醫	佐藤新	大分	理	高橋達敏	愛媛
工	清家華	愛媛	醫	仙波香介	愛媛	工	竹中秀夫	廣島
農	竹内(柴田)勝雄	京都	農	竹内虎夫	香川	農	平野大	純愛媛
工	珠川慶一	愛媛	工	平野晃	京都	農	渡部孝	愛媛
工	村上二郎	愛媛	工	山田(内藤)龍乘	大分	農	渡部孝	愛媛
藥	渡部直政	愛媛	工	山田(内藤)龍乘	大分	農	渡部孝	愛媛

○理科乙類卒業者

三三人

醫	池内眞澄	愛媛	理	一藤敏男	兵庫	理	猪野俊平	愛媛
農	上田治	大阪	醫	大谷佐平	徳島	醫	大月福吾	福井
醫	戒田澄之助	愛媛	醫	梶山盛夫	廣島	醫	川本福吾	廣島
醫	木間瀨棠三	千葉	醫	重松忍	愛媛	醫	高橋一松	愛媛
醫	高橋亮平	愛媛	醫	武智哲夫	愛媛	農	橋(竹政)英基	愛媛
農	堤井(赤木)武士	廣島	醫	寺島富彦	京都	農	内藤進	新潟
農	中尾一男	愛媛	醫	長瀨重雄	愛媛	醫	西依九五	佐賀
醫	二宮(尾崎)茂彌	愛媛	文	長谷川嘉信	廣島	醫	富士川次郎	廣島
醫	藤卷茂夫	新潟	醫	前田喜八郎	和歌山	醫	增本鷹生	愛媛
農	宮川浩平	新潟	醫	三好義夫	愛媛	理	村橋俊介	京都
理	森田眞一	大分	醫	三宅(森)哲三	愛媛	理	山本英雄	愛媛

◎第七回 (昭和三年三月)

一五三人

○文科甲類卒業者

四〇人

法	赤松忠兵衛	愛媛	文	有田二郎	大阪	法	石川孝一	香川
法	伊藤完三郎	愛媛	法	大隈相	求朝	法	上野喜儀	香川
文(死)	馬野健一	山口	法	津智	實福	法	小野攝龍(攝)	大阪
東文	小川太郎	愛媛	文	金丸二郎	廣島	文	北出(藤本)	彰
法	河村威夫	廣島	法	田中直吉	兵庫	文	玉井幸三	九
經	近藤良敏	愛媛	法	津守信太郎	愛媛	法	寺川敏明	愛媛
經	趙正斗	朝鮮	法	長尾(小出)	滋	法	中村信一	島根
文	外村耕一	滋賀	經	西村清	兵庫	文	林徹朗	香川
法	日野開三郎	愛媛	經	平野五郎	大阪	法	平野	昇
法	廣瀬正男	香川	法	藤井源八郎	大分	經	福田幸雄	山口
法	宮本顯治	山口	經	宮脇英治郎	香川	法	森實良	愛媛
法	芳野要	愛媛	東經	若林竹雄	兵庫	經	和田弘	愛媛
東文	和田陽平	神奈川						

○文科乙類卒業者

三九人

經	足立米輔	大阪	文	市村春雄	香川	文	稻葉秀三	京都
---	------	----	---	------	----	---	------	----

○理科甲類卒業者

四〇人

經東法	宇佐美藤壽	大阪	文	内田吟風	東京	經	小川	岡山
經	奥野幸治	大阪	法	小倉政博	東京	法	景山	岡山
法	金谷祐一	大阪	法	坂本眞一	兵庫	法	重田數	大阪
文	小林時二	山口	經(死)	坂本眞一	兵庫	文	吳景	臺灣
文	志田原忠雄	廣島	經	白銀一郎	愛媛	文	京農(死)	重
法	鈴木幸康	愛媛	文	高岡英夫	北海道	文	武智雅一	愛媛
東法	田島健	京都	文	東山松男	愛媛	東經	永田	愛媛
法	夏井正男	愛媛	法	中矢信男	愛媛	文	西村	京都
經	深澤忠	岩手	法	福田保	愛媛	經	松田安	愛媛
文	松山茂二	大阪	法	前谷重夫	愛媛	法	宮崎	愛媛
文	安河内隆	福岡	法	山本幸二郎	愛媛	法	吉村辰夫	福井
東經	李敏	朝鮮	文	渡部敏雄	愛媛	京法(死)	渡部義雄	愛媛

○理科甲類卒業者

四〇人

廣文	淺田光男	愛媛	工	伊賀上五郎	愛媛	農	池田豐苗	廣島
工	池川宏	愛媛	工	石川隆	愛媛	工	井手洋	愛媛
工	宇井一郎	和歌山	工	大政正人	愛媛	文	大石義信	香川
農	大石博	廣島	農	尾崎重德	愛媛	工	太田信之	鳥取
工	大野宏	愛媛	工	河村謙二	愛媛	理	梶川弘二	京都
工	河口方	愛媛	醫	佐藤芳雄	岡山	工	川又久夫	京都
工	黃泳	朝鮮	工	九醫(死)	末澤申一	香川		

農	末澤慶康	香川	法	高嶋一郎	廣島	理	中條實	香川
醫	寺島和周	香川	工	友近勝利	愛媛	東農	中浦實	愛媛
工	中山(西原)孝康	福岡	醫	橋本千春	愛媛	醫	福田秀雄	德島
工	藤村隆	京都	岡醫	日淺靜逸	愛媛	理	別府聖	愛媛
工	松野四郎	愛媛	東農	松木正孝	愛媛	理	山路芳男	愛媛
東理	行岡朗	三重	醫	吉浦一雄	廣島	工	李升基	朝鮮
法	渡部久	愛媛						

○理科乙類卒業者

三四人

醫	荒川泰胤	廣島	慶醫	安東喜四夫	岡山	醫	石川利直	廣島
京農	一色肇	愛媛	京農(死)	井上元一	廣島	醫	枝廣準三	岡山
東理	岡忍	愛媛	農	奥野俊三	大阪	醫	金井英藏	兵庫
醫	河野通郷	香川	京工	加宮元政	香川	東理	金鐘	遠朝鮮
醫	黑田秀雄	德島	工	島田嚴	福井	京府醫	清水政男	愛媛
京醫	白井規矩雄	大阪	理	高岡道夫	北海道	醫	都留元行	鳥取
長醫	栃木克人	島根	京醫	中村敏夫	愛媛	農	中本元行	鳥取
農	日野通美	愛媛	工	平田甫	愛媛	醫	藤原啓太郎	德島
醫	二神義清	愛媛	醫	朴泳敦	朝鮮	醫	松野至	廣島
醫	松原恒三	香川	醫	水野耕太	岐阜	醫	村井晉	京都
醫	村上治朗	愛媛	工	村田一常	愛媛	醫	森田豐	香川
理	守谷益男	岡山						

◎第八回 (昭和四年三月)

一四一人

○文科甲類卒業者

三七人

經	飯田黨五郎	愛媛	經	尹行重	朝鮮	法	潮見英俊	山口
法	大林正夫	廣島	法	岡本正徳	愛媛	法	加藤吉三郎	廣島
法	金時潤	朝鮮	商	窪谷直光	山口	法	兒玉松夫	大分
法	五味(大堀)一夫	大阪	商	坂本清壽	愛媛	東法	白石正計	愛媛
法	末國雅人	廣島	(死)	末光	愛媛	東法	須賀茂雄	愛媛
法	武田元	愛媛	法	田坂輝敬	愛媛	經	依賀茂	島根
文	友澤三千秋	愛媛	法	長繩忠	岐阜	法	西垣清一郎	大阪
法	野口量平	愛媛	法	拜志晋	愛媛	法	畠中雪夫	岡山
法	林貞三	大阪	經	美藤(平原)清文	愛媛	文	平田陽一郎	愛媛
法	福井敏夫	愛媛	法	藤田實	愛媛	文	堀内修	愛媛
法	正岡三郎	廣島	法	松田(野田)舜	岡山	文	村上倬一	愛媛
法	望月進	廣島	法	森貞美知雄	愛媛	法	守谷福三郎	岡山
法	米澤新	愛媛						

○文科乙類卒業者

三九人

經	有馬小兵衛	廣島	經	井川重秋	愛媛	法	石井英一	香川
法	石川達一	愛媛		石田太米一	兵庫	法	井上敏明	廣島

文	石村東吾	法	大島居季彦	東法	門田省三
文	龜井邦一	商	木原輝夫	經	窪田平八郎
文	熊野俊雄	法	黒田英藏	法	小谷留夫
文	古茂田一義	法	重信英雄	文	鹽入進
文	白石朝則	法	杉野精一郎	法	杉野健雄
文	須田昇	法	清米八郎	法	關谷智郎
文	高岡周夫	法	橋謙之助	法	玉本善三郎
文	土岐健	法	利根澤貞雄	法	新居秀雄
文	二宮威徳	法	野中保夫	法	東野正晴
文	日野正則	法	船越弘	法	町野正晴
文	松山凌三郎	法	八木龜太郎	法	山内雲平

○理科甲類卒業者

三四人

工	富川直正	工	友兼泰	工	中路幸謙
工	高松茂昌	工	田中正雄	工	富山新一
工	重川涉	工	潮見公安	工	杉竹義美
工	片岡剛	工	兼藤健介	工	佐竹義美
工	大内秋二	工	小野北男	工	太田敏樹
工	五百木順三	工	鶴澤敏三	工	江山好美
工	伊藤努	工	岩崎明	工	岩崎豊一
工	麻田知徳	工	阿部重延	工	安保文夫

文	平井忠夫	工	藤井啓一	工	八塚義晴
工	村上太郎	工	八島忠	工	山岡育平
工	矢野進	工	矢野千春	工	山岡育平
工	渡邊純一	工	矢野千春	工	山岡育平

○理科乙類卒業者

三一人

醫	有馬良夫	大工	飯高元雄	醫	伊藤良二
醫	小川清一	理	加藤源治	大醫	佐伯寛四郎
九醫	齋藤(和氣)清文	醫	齊藤七五三男	東北法文	井政一
九醫	清水隆吉	醫	城原讓一	經	須川勝造
醫	辰野信三	理	田中忠良	理	淡中忠郎
醫	土肥忠右衛門	農	豊田威	九醫	永井諄爾
醫	原英道	醫	福家才助	經	前田紀興
醫	松村莊	九醫	宮川通之	醫	三宅貞夫
醫	三好爲一	醫	村上修	醫	元木貫一郎
醫	本原貫一郎	醫	矢野四郎	農	吉崎千秋
醫	若江(出井)勝也	醫	熊本	農	吉崎千秋

◎第九回 (昭和五年三月)

一四三人

○文科甲類卒業者

四二人

文	伊賀上謙	法	猪野謙吾	法	宇都富照二
文	伊賀上謙	法	猪野謙吾	法	宇都富照二

九法文	越智國郷	愛媛	京文	上月龍三	兵庫	九法文	柏正男	宮城
法	桐田實	愛媛	法	金相	洞	京法	金鍾述	朝鮮
東法	兒玉恒雄	愛媛	法(死)	佐伯信隆	香川	文	酒井金次郎	東京
東法	志田昌哉	佐賀	京法(死)	鈴木元一	福島	文	武井凱之助	愛媛
法	竹内修	富山	文	田邊晃	愛媛	經	近廣秀人	廣島
法	露口達	愛媛	京法	寺畑春雄	東京	東法	富室三郎	和歌山
法	内藤健三	兵庫	經	中島敏夫	岡山	法	中田政太郎	兵庫
經	西松岩一	愛媛	法	阪東壯八郎	兵庫	法	廣瀬藤介	愛媛
法	廣中益次郎	山口	法	北郷爲雄	鹿兒島	京經	松島純治	廣島
法	松田八郎	富山	商	三浦武揚	大分	經	水越輝雄	廣島
神商	宮内安綱	愛媛	文	森一	愛媛	法	森田劫	愛媛
九法文	森本盛三	廣島	文	横野佐太郎	愛媛	東文	吉田氏成	愛媛
文	吉田博	愛媛	京法	李恒雨	朝鮮	京經	渡部順平	愛媛

○文科乙類卒業生

三一人

法	岩崎佐七	愛媛	東法	大内久	兵庫	東經	太田修	香川
法	大谷章	愛媛	慶應	大原信行	東京	東法	大森高壽	愛媛
法	神德龍	大分	東經	川村虎夫	岩手	京法	龜田彬	廣島
法	北澤丈夫	東京	經	栗原保雄	群馬	法	久留島理	香川
京法	佐伯徳一	廣島	京文	茂川眞澄	愛媛	商	鹽崎治男	愛媛
法	住井保太郎	大阪	法	高田久三郎	大阪	京法	武智文明	愛媛

法	筒井	高知	經	中谷	大阪	法	野村	見
法	白鷗	朝鮮	文	藤野	愛媛	文	牧野	仁
京法	松崎宗光	愛媛	京法(死)	松本貞一郎	愛媛	法	光藤介	通
經	南景樹	東京	森松	茂	愛媛	東法	渡邊專二	愛媛
文	渡邊義晴	愛媛						

○理科甲類卒業生

三二人

工	相原一郎	愛媛	工	赤星	光	農	秋光	次
長醫	秋本徹	廣島	工	淺井滿	長	工	阿部圭	要
東北理	泉虎一	愛媛	九法文	海老原美武	東京	工	金圭	伏
農	齊藤忠兵衛	兵庫	岡醫	佐々木英雄	鳥取	工	仙波	勉
東工	大龜實	愛媛	工	高橋修一	愛媛	九工	竹山和	達
工	玉井正彰	愛媛	工	依野隆	治	農	長井英	照
工	中尾毅	福岡	九工	長野隆	治	農	野下壽	治
工	野村英一	東京	工	樋口松之助	大阪	農	福田憲	六
京工	堀内倂	愛媛	東北法文	森棟隆	弘	工	村上惠	一
工	元山久雄	鹿兒島	九工	森棟隆	弘	工	安井健一	郎
東北工	吉村三郎	靜岡	東北法文	李海	朝鮮	工	安井健一	郎

○理科乙類卒業生

三八人

商	伊藤鑑一郎	東京	經	宇野	裕	愛媛	九醫	岡井	武	愛媛
---	-------	----	---	----	---	----	----	----	---	----

醫	加藤 勳 愛媛	神商	河内 憲一 愛媛	醫	酒井 重明 福岡
東工大	柴田 富喜夫 大分	東北醫	清水 進 長野	農	申 映 福岡
醫	菅井 正憲 愛媛	東北醫	高橋 貫吉 愛媛	金醫	武本 繁太郎 愛媛
醫	田邊 治雄 千葉	醫	玉井 九郎 右衛門 愛媛	醫	塚本 長太郎 兵庫
京農	辻 志良 石川	醫	都 熊重忠 愛媛	千醫	津 端 泉 東京
法	中 桐 忠雄 岡山	京經	中 野 忠夫 京都	理	水 野 爲武 愛媛
岡醫	長 野 嘯 岡山	京醫	根 本 光 茨城	醫	乃 木 惇 京都
金醫	平 位 順一 兵庫	長醫	平 井 孝 大分	九醫	平 岡 六郎 埼玉
大醫	本 田 直博 愛媛	工	三好 義太郎 愛媛	京農	八 木 光雄 愛媛
岡醫	安 井 正俊 愛媛	農	矢野 忠次郎 山口	醫	山 内 峻 吳 三重
京農	山 田 耕 香川	京醫	吉野 (徳丸) 章 愛媛	千醫	吉 野 正文 千葉
農	米 田 茂男 京都	東北理	渡 部 長 德 愛媛		

◎第十回 (昭和六年三月)

一四四人

○文科甲類卒業者

三六人

法	井上 時近 愛媛	京文	入 江 春男 京都	法	宇野 範三郎 愛媛
東法	榮 本 貞夫 山口	法	奥 川 晋 愛媛	京文	奥 田 尊睦 愛媛
法	越 智 忠文 愛媛	法	越 智 道繁 愛媛	京經	越 智 實 愛媛
東法	大 谷 幸雄 愛媛	法	大 西 二郎 愛媛	法	加 地 常式 愛媛
法	川 島 進 兵庫	法	木 村 哲郎 鳥取	法	兒 玉 義忠 愛媛

法	小 林 富郎 廣島	文	鹽 見 巖 愛媛	經	白 石 通夫 愛媛
法	須 賀 賢二 愛媛	經	高 岡 正 道 鳥根	東北(死)	田 栗 由喜藏 鳥取
法	玉 井 和夫 愛媛	法文	土 屋 進 愛媛	法文(死)	友 岡 博行 福岡
法	中 西 克寛 岡山	經	野 本 實 愛媛	文	藤 田 四郎 愛媛
法	松 本 信雄 廣島	東法	丸 毛 重行 北海道	商	宮 本 和太 香川
法	村 上 東吾 愛媛	法	毛 利 靜一 愛媛	文	八 木 毅 愛媛
法	渡 邊 喜一郎 愛媛	法	渡 邊 伍良 愛媛	法	李 益 興 朝鮮

○文科乙類卒業者

三二人

東文	安 東 巖 山口	經(死)	五 百 木 敏夫 愛媛	京文	池 田 高田 清治郎 愛媛
京法	今 村 憲治 愛媛	經	今 井 孝 愛媛	經	奥 村 小七郎 京都
京文	大 喜 多 秀香 香川	經	河 内 明一 郎 愛媛	法	河 野 定治 宮崎
京法	龜 山 幸三 香川	法	小 林 又三 山口	法	笹 井 温文 愛媛
東文	篠 原 敏之 愛媛	法	沼 田 (芝田) 喜三雄 愛媛	經	島 崎 恭平 愛媛
法	清 水 利雄 岡山	東經(死)	下 村 純正 愛媛	法	末 光 秀夫 愛媛
神商	關 秀雄 大阪	文	武 田 茂 愛媛	京法	橋 本 盛行 愛媛
法	田 村 常雄 香川	文	西 原 面幸 愛媛	文	松 崎 宗雄 愛媛
文	松 本 善海 愛媛	文	松 尾 一 徳 香川	法	美 濃 部 喜一 大阪
東法	三 宅 太郎 岡山	東經	向 井 譽雄 愛媛	經	森 郷 治 愛媛
經	山 口 國治 愛媛	法	吉 田 要 愛媛		

○理科甲類卒業者

四二人

農	天野彰	九醫	池内清水	東農	宇都宮恒雄
工	小倉祐三	京農	大關正	東工	岡部三喜雄
農	越智功	農	加藤善忠	大理	川本健二
東工	神谷貞吉	工	北島東三	東工大	佐々木秋豊
東工大	島村健二	工	正司清介	京工	白石競
東北理	洲之内源一郎	工	曾根高恒	工	高橋樟彦
九農	高橋伸太郎	東理	武田晋一郎	東醫	立川安夫
工	團野確郎	東醫	繼田茂	金醫	得能利温
京法	中川兼一	工	仲田包忠	東工大	中西弘
九醫	西川善隆	東北法文	仲田包忠	東工	原田勇夫
農	平井重三	岡醫	益澤(阿部)博	東工	益田功
大工大	松本雄三	東農	三木恒隆	東工大	三留敦
工	宮川要次郎	長醫	向井幸治郎	九法文	村上準一
工	森重一夫	京工	和田定次郎	長醫	渡部讓

○理科乙類卒業生

三四人

京農	中條紀三	千醫	土屋六衛	京醫	堤嘉之
京農	東條周平	金醫	豊崎乙若	熊醫	中河快夫
九醫	長崎秀雄	工	橋本芳三	滿醫	林宣正
九醫	東郁夫	京醫	飛田達哉	京醫	松木軍太
岡醫	松岡健雄	新醫	丸岡榮一	東北理	森川之芳
九醫	藥師寺直美	長醫	山根英夫	新醫	山之内茂夫
岡醫	吉村久雄				

○第十一回 (昭和七年三月)

一三六人

○文科甲類卒業生

三八人

京文	安藤正瑛	京法	井口圓四郎	京法	市村啓一
京法	浦上恒右衛門	京文	江口泰助	東北法文	大西樂三
京法	大野行雄	京法	岡田尹	京文	小川哲郎
京經	戒能甲太	東法	加藤進	京法	茅田彰兄
東經	駒馬英雄	京法	金大	京文	小崎喜太郎
九法文	近藤公夫	京經	新藤良	東經	高野日出男
京法(死)	田中順二	東法	田中忠	京文	玉貫公貫
京法	長沼徹	京經	西本成吾	京法	廣島通
京法	福岡清文	東文	藤井公明	東經	廣島通
東經	宮内守三郎	東法	三好次郎	京文	森元四郎

京法	森松英男	東經	門田喜久	京經	柳瀨隆哉
京法	山地秀男	京法	山本篤美	京法	吉元
京文	和田茂樹	京法	渡邊行久	京法	猛
					東京

○文科乙類卒業者

三六人

京法	相原經之	京文	足立修平	東法	位野木益雄
東法	宇和川一正	京經	大槻豊	東法	大本俊平
東文	岡武志	東法	小野豊明	東經	加島正男
京經	鎌江智	神商	河野唯雄	京文	小林健一
東經	蔡恒錫	京文	重見辰馬	京法	清水保廣
東法	關谷正憲	東文	仙波鳳吉	京法	高市保廣
京法	高辻房吉	京法	田口篤麻呂	京法	武知和夫
東經	田中達次	京法	田村深	京文	築山弘
京文	辻慶三	京文	津守健二	東文	中川繁次郎
京文	丹羽淺次郎	京經	廣藤保孝	九法文	榎塚文太郎
京法	松平達	廣文理	松本美鬼	京法	松本章雄
東法	宮内修	東文	米田巍	東文	渡邊茂
					千葉

○理科甲類卒業者

三二人

東北工	池淵實鳥取	東農	井上英夫	京工	今津忠幸
九醫	岩崎正愛媛	阪醫	大賀弘毅	九工	大村繁三郎

東工	岡田吉一	東農	尾崎都司也	京醫	恩地豊
能醫	河合稔	阪工	河東正二	京農	金成桓
岡醫	神山幸俊	九農	汐見清正	京農	信田景
阪工	白石貞久	京醫	須賀榮二郎	東工	鶴本多門
京工	土居寧文	京工	福岡末雄	長醫	古川林三郎
東農	堀内勇作	東工	牧野茂	京理	松原積
東工	水尾安彦	岡醫	八塚陽一	岡醫	山下敬三
九工	楊一甲	京工	吉田宗信	東工	吉村英喜
東工	渡邊文雄				大阪

○理科乙類卒業者

三二人

九醫	靖島盛靜岡	青野哲也	長醫	石井俊一
能醫	伊藤四郎	伊藤正雄	京醫	岸坂(壺井)直彦
滿醫	岩崎堅三	上田平二	京醫	大村博之
阪醫	加藤香彦	窪田幸二	京醫	久山斌
岡醫	河野實香川	小島俊男	阪醫	坂田林一
九醫	酒井知行	田窪清之亮	九醫	中瀬忠俊
京醫	中田盛良	中村康治	九法文	野々村太郎
阪醫	林盛一	平井正一	九農	藤本正記
阪醫	船富光	松田貞温	長醫	松本滿
金醫	圓山楨雄	山根幸夫	京醫	米澤忠篤
				奈良

京農 李 鳳 熙 朝鮮

◎第十二回 (昭和八年三月)

一四一人

○文科甲類卒業者

三六人

東經	安部 肇	京法	粟井 康也	東法	伊賀 克彦
京文	一色 正道	東經	伊藤 正一	東法	今井 頼夫
京法	遠藤 福雄	九法文	岡田 快哉	東法	奥島 豐彌
京法	大西 美中	京法	大矢 安義	京法	桂 七十七郎
京法	門屋 勤	東文	桑村 二一	京法	小林 久夫
京法	近藤 元正	京法	西村 平治	京法	重木 茂
京法	白石 定義	東經	信田 正高	東經	鈴木 節雄
京法	關根 勇	京經	田中 正	京法	津山 善市
東法	徳田 悌次郎	京文	仲 亨	京經	長尾 哲藏
東法	長島 廉	京法	船橋 鋼三郎	東經	森 廣親
京經	矢野 正明	京經	矢原 遼二郎	九法文	山田 秀
東法	横田 敏夫	京經	吉住 敬次郎	九法文	浦島 潔己
東法	井上 保	京法	今井 義一	東法	宇都宮 周策
京法	大野 尚	神商	大野 由之	京法	戒田 亘

○文科乙類卒業者

三四人

京法	小山 潔	京法	近藤 健	京法	佐伯 拓一
東經	篠塚 元一	京法	瀬戸 丸保一	京經	徳増 覺次良
京法	富田 吉郎	京法	仲田 包武	東經	中村 運明
京法	長山 松比古	京法	奈田 喜一郎	京法	濱垣 信清
京法	平野 喜十郎	京法	廣野 嘯兒	京法	廣橋 泰三
廣文理	藤原 道一	京法	星加 照夫	東法	松井 伯
京法	松友 孟	東法	松本 三郎	東法	宮内 正通
京法	森田 新一	東經	森 祥二郎	京法	森 内 雄
京法	森田 新一	京文	森山 正元	東法	山崎 績
東法	渡邊 四郎			東法	山崎 績

○理科甲類卒業者

三九人

大工	相原 正	九醫	秋富 一人	岡醫	安藤 正睦
東工	稻本 一夫	東農	植岡 静雄	東農	小椋 正文
長醫	越智 重美	東農	柏原 尤一	東農	河口 三郎
九工	岸 憲介	東農	串田 克己	東農	黒野 忠雄
東農	後藤 吉郎	東農	齊藤 潔	東農	齋藤 惠
東農	坂元 種夫	東農	篠原 藤之助	東農	末松 弘
東農	末松 幹	東農	鈴木 幹生	東農	關根 和雄
東北理	高岡 實	東農	友岡 滿壽美	東農	中島 豊雄
京醫	中村 勇	京農	西岡 榮	長醫	野本 清一

阪工 林久義 鳥取 長醫 原田重朗 愛媛
 岡醫 正岡 一愛 岡醫 松尾節司 廣島
 岡醫 宮内 忠良 香川 東工 村上 關次郎 愛媛
 東農 吉田 鎮雄 兵庫 九醫 吉田 信良 長崎
 三二人

○理科乙類卒業業者

岡醫 安藤 正典 香川 岡醫 池内 馨 廣島
 能醫 浦岡 義道 愛媛 岡醫 奥島 芳夫 愛媛
 金醫 木村 賢三 愛媛 能醫 栗田 茂 愛媛
 阪醫 西藤 滋和 滋賀 阪工 新見 忠 愛知
 九醫 鈴木 滿壽己 愛媛 岡醫 高橋 篤 廣島
 能醫 都築 順 愛媛 阪醫 天滿 和人 鳥取
 能醫 中島 直樹 廣島 長醫 野間 全治 廣島
 九工 榎塚 隆 愛媛 東農 間 阪三郎 岡山
 東醫 松木 泰久 愛媛 金醫 圓山 文雄 鳥取
 東醫 村上 伍朗 愛媛 阪醫 山本 好明 東京
 京理 渡部 勝 愛媛 九醫 渡邊 和夫 香川
 一五一人

○第十三回 (昭和九年三月)

○文科甲類卒業業者

東文 赤松 則夫 愛媛 京法 伊賀 章 愛媛
 池川 良正 愛媛
 三八人

京文 石丸 純忠 愛媛 東法 稻井 茂昌 愛媛
 京法 奥山 磐三 重 東法 加來 正己 大阪
 京法 門田 耕治 德島 京法 門多 正 大分
 京經 川端 六郎 和歌山 九法文 龜田 覺 福岡
 東文 栗田 文夫 愛媛 京經 栗原 正 愛媛
 東文 小西 彌千 葉 京文 重松 湖 愛媛
 東法 進藤 鶴之助 愛媛 京文 高橋 亨 愛媛
 田中 藤一 愛媛 東法 得能 丘 愛媛
 濱田 芳信 大阪 京經 平野 安人 香川
 松田 史郎 愛媛 東文 松本 新八郎 愛媛
 增野 正 爾 山口 東法 宮内 健正 愛媛
 橫山 襄 福岡 京法 渡邊 動 三重
 東法 九法文 守部 直次 福岡

○文科乙類卒業業者

三八人

專修 相田 肇 愛媛 京法 赤嶺 正夫 大分
 京法 麻野 隆平 兵庫 東文 安藤 光雄 香川
 京法 井上 正孝 愛媛 東法 馬越 憲一 愛媛
 京法 越智 通武 愛媛 京法 大森 忠壽 愛媛
 京法 押本 正二 京都 京法 片山 正 德島
 東文 川又 時久 愛媛 京法 菅山 正 鳥取
 京經 熊本 秀雄 愛媛 東法 栗田 恒三郎 愛媛
 京法 今里 孝章 香川
 京法 小野 勝喜 大分
 京法 川地 文太郎 廣島
 京法 吉良 與一郎 大分
 京法 白石 修 愛媛

京文	鈴鹿隆芳	京法	清家芳樹	高木一郎	廣島
東法	橋本虎雄	京法	秦克己	久松茂	茨城
專修	福井正夫	京法	別府幸男	北郷道雄	鹿兒島
東法	前田好郎	京法	前野謙一郎	宮永半	大分
	宮脇正虎	東法	村上牧男	八十島太郎	福井
	山崎泰樹	東法	渡邊武徳		

○理科甲類卒業者 三五人

大工	相原邦明	青野陽二郎	石崎
京理	石丸茂	伊藤稔	上野孝
東理	太田實	小田厚	越智隆次
京工	大橋恒夫	加藤賢吾	雲淵富三郎
京工	小玉數信	佐藤文三	重松敦雄
京工	鹽出正	白形進平	高橋克己
東工	藤田圖南	松本一朗	野本清
東工	松本勝	宮野弘孝	森本伊佐夫
專修	矢野正二郎	矢野透	山崎肯哉
京工	山田儉二郎	横山倬夫	吉川元造
東工	渡邊寅雄	和田稔	

○理科乙類卒業者 四〇人

九醫	淺井建佑	大工	麻生道雄	熊醫	有富正直
京醫	阿部信之	岡醫	安藤要	熊醫	石丸清
長醫	伊藤正二	專修	伊藤貞志	熊醫	井上勳
長醫	大下隆夫	京醫	片山貞志	熊醫	川原國夫
京農	川曲正莊	大醫	河淵清	東工	小國量
九醫	上坂道雄	京醫	酒井泰輔	京農	志賀克己
九醫	近藤俊三	京醫	白石善之	京農	鈴木暢夫
新醫	高田義夫	東北醫	高橋吉雄	大醫	田邊徹吉
大醫	壺井清彦	金醫	野島親康	京農	長井一郎
大醫	西脇和義	熊醫	藤野基康	京農	蜂須賀太郎
東醫	福見秀雄	專修	宮崎菊雄	京農	溝部文夫
大醫	水口秀夫			京農	望月仁三
大醫	矢野尾三郎				

三、生徒年齡調

(昭和九年四月末日現在)

文科 理科	第三學年	第二學年	第一學年	計	最高		最低		平均	
					年	月	年	月	年	月
文科	二二	二四	二二	二〇	一八	〇月	二〇	〇月	二〇	〇月
理科	二二	二二	二二	二〇	一八	〇月	二〇	〇月	二〇	〇月
文科	二〇	二〇	二〇	一六	一七	二	一七	二	一七	二
理科	二〇	二〇	二〇	一六	一七	二	一七	二	一七	二
計	二二	二四	二二	二〇	一八	〇月	二〇	〇月	二〇	〇月

四、本年度入學者學歷別

九昭和 八昭和 七昭和 六昭和 五昭和 以前	中學四年修了		九昭和 八昭和 七昭和 六昭和 五昭和 以前	中學卒業		計
	人	數		人	數	
九昭和	二	一	二	一	一	二
八昭和	一	一	一	一	一	二
七昭和	一	一	一	一	一	二
六昭和	一	一	一	一	一	二
五昭和	一	一	一	一	一	二
以前	一	一	一	一	一	二
計	六	五	六	五	五	一六

計	理科	文科
三四	二	二三人
一	一	一人
一	一	一人
一	一	一人
五三	二八	二五人
二四	一四	一〇人
五	五	一人
一	一	一人
一	一	一人
一一六	五八	五八人

五、生徒、入學志願者、入學者及卒業者科類別

(昭和九年四月末日現在)

文科	計	生徒			入學志願者	入學者	卒業者
		第一學年	第二學年	第三學年			
甲類	三〇人	三四人	三五人	九九人	三四五人	二九人	三八人
乙類	三〇	三六	三七	一〇三	三四五人	二九人	三八人
計	六〇	七〇	七二	二〇二	三四五人	五八	七六

生徒、入學志願者、入學者及卒業者科類別

計	中 華 民 國	樺 太	台 灣	關 東 州	朝 鮮	沖 繩	九洲區						高知愛媛區			
							鹿 兒 島	宮 崎	大 分	熊 本	長 崎	佐 賀	福 岡	高 知	愛 媛	
七二								一	一						三五	
七一								一		一	二				三一	
七一					一			一	一						四二	
八一										一	二				四二	
六〇					一						一				三七	
六〇									一		一				二八	
四一五					二			一	四	四	一	四	一	四	二二五	
一八六七	九	一	三	一	三五	一	六	八	四	四	六	三	五	三一	四五一	

國四	中國區				近畿區				東海區							
	香 川	德 島	山 口	廣 島	岡 山	鳥 根	鳥 取	和 歌 山	奈 良	兵 庫	大 阪	京 都	滋 賀	三 重	愛 知	靜 岡
五三				四	四	二	二			一	四	二	一	一		
六四				三	五	二				一	四	二				一
四一				一	一	二				一	三	五	二			一
六一				一	四	一	三			二	四	四	一	一		二
三一				一	七	二					二	三				一
四					六	一					一	三	四	二		一
二八〇	一〇	二七	一〇	二	四			三	三	二〇	二〇	六	四			二四二
一〇三	三六	三八	一三七	五一	一一	二〇		二七	一六	八〇	八三	三八	九			一八八

七、卒業者狀況調

卒業人員 { 自第一回 (大正十一年三月) 至第十三回 (昭和九年三月) } 一、八六七人

種別	法學部	文學部	經濟學部	法文學部	醫學部	工學部	理學部	農學部	商學部	文理科	理工科	其他	計
東京帝國大學 = 入學	一七七 △(一三)	一一二 △(六五)	九四 △(六〇)	九 △(〇)	四九 △(二六)	八八 △(五六)	二五 △(一八)	六九 △(三八)					六三一 △(七五)
京都帝國大學 = 入學	二五一 △(一六)	九二 △(七一)	一三二 △(九三)		六五 △(三四)	六九 △(四〇)	一七 △(一一)	三七 △(二一)					六六三 △(四〇)
東北帝國大學 = 入學				二七 △(一五)	一一 △(七)	一四 △(一一)	二二 △(一七)						七五 △(五〇)
九州帝國大學 = 入學				三二 △(一七)	八〇 △(五〇)	三三 △(三一)		一〇 △(〇)					一五五 △(九三)
大阪帝國大學 = 入學					一九 △(四)	一七 △(一)	二 △(〇)						三八 △(四)
北海道帝國大學 = 入學						一 △(〇)	一 △(〇)						二 △(〇)

種別	新瀉醫科大學 = 入學	岡山醫科大學 = 入學	千葉醫科大學 = 入學	金澤醫科大學 = 入學	長崎醫科大學 = 入學	名古屋醫科大學 = 入學	熊本醫科大學 = 入學	滿洲醫科大學 = 入學	京都府立醫科大學 = 入學	廣島文理科大學 = 入學	東京工業大學 = 入學
法學部											
文學部											
經濟學部											
法文學部											
醫學部	一 △(〇)	四 △(一五)	一 △(〇)	一 △(〇)	三 △(一七)	三 △(一七)	九 △(三六)	八 △(二七)	一 △(〇)		
工學部											一〇 △(九)
理學部											
農學部											
商學部											
文理科										四	
理工科											
其他											
計	一 △(〇)	四 △(一五)	一 △(〇)	一 △(〇)	三 △(一七)	三 △(一七)	九 △(三六)	八 △(二七)	一 △(〇)	四	一〇 △(九)

第八 敷地建物

本校敷地ハ松山市持田町ニ在リ其面積ハ壹萬九千六百八拾參坪ニシテ之ニ建設セル建物ノ坪數ハ二千二百二十八坪
 八九三トス松山市持田町備外國人教師官舎敷地ハ百五十坪之ニ建設セル建物坪數ハ參拾壹坪五五〇松山市中一万
 町備外國人教師官舎敷地ハ百參拾壹坪二一〇之ニ建設セル建物ノ坪數ハ貳拾八坪〇五〇トス而シテ溫泉郡新濱村
 ニ端艇庫二棟(建物坪數六拾四坪)並ニ同艇庫附屬脱衣場一棟(建物坪數拾七坪五〇〇)アリ之ヲ區分スレバ左ノ
 如シ

松山高等學校建物表

所用名	構造種類	坪
教室及事務室	木造二階建	三七二五〇
右附屬玄關	木造平家建	一一九一二
生徒控所兼雨天體操場	同	七五〇〇
銃器室及物置	同	五五〇〇
倉庫	煉瓦造二階建	三〇〇〇
物理教室	木造平家一部席裝	一六二五〇

化學教室	同	一四八五〇
博物教室	木造平家建	一四一五〇
藥品庫	煉瓦造平家建	五〇〇〇
硫化水素室	木造平家建	五〇〇〇
講堂	木造平家ガレリ付一部二階建	一四六〇〇
講堂	木造平家建	七五〇〇
柔劍道場	同	八〇〇〇
書庫	鐵筋コンクリート二階建	三〇〇〇
給水ポンプ小屋	木造平家建	六〇〇〇
小使室	同	二〇〇〇
寄宿舎	木造二階建	三〇四五〇
右附屬病室	木造平家建	一一〇〇〇
右洗面所	同	一八〇〇〇
右玄關及入口下駄場	同	一七〇〇〇
寄宿舎事務室	同	一一〇〇〇
寄宿舎食堂	同	一一五〇〇
生徒主事官舎	同	四四〇〇〇

附 錄

○松山高等學校校友會規則

- 第一條 本會ハ松山高等學校校友會ト稱ス
- 第二條 本會ノ目的ハ會員ノ親睦ヲ厚ウシ知徳ヲ研キ體育ヲ奨メ校風ヲ發揚スルニア
- 第三條 本會會員ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 一 通常會員 (生徒)
 - 一 特別會員 (職員)
- 第四條 本會ニ左ノ各部ヲ置ク

一 總務部	一 柔道部
一 陸上部	一 野球部
一 籠球部	一 山岳部
一 文藝部	一 辯論部
	一 庭球部
	一 水泳部
	一 蹴球部
	一 弓道部
	一 蹴球部
	一 端艇部
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 會長 校長ヲ推戴ス

會務一切ヲ綜理ス

- 一 副會長 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス
- 一 會長ヲ補佐シ兼テ總會ヲ整理ス
- 一 部長 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑シ部務ヲ監理ス
- 一 委員 通常會員中ヨリ部長之ヲ指名シ事務ヲ分掌ス
- 一 委員數左ノ如シ
- 總務部 二名
- 劍道部 柔道部 弓道部 陸上部 野球部 庭球部 蹴球部 籠球部 各四名
- 山岳部 水泳部 端艇部 文藝部 辯論部
- 一 理事 總務部ニ限リ通常會員中ヨリ部長之ヲ指名シ事務ヲ分掌セシム
- 一 理事ノ數ハ四名トス
- 一 評議員 特別會員中ヨリ三名、通常會員中ヨリ各組一名互選ニヨリ、總會ニ出席シ會務ノ審議ニ參與ス
- 但シ評議員ハ部長及委員ヲ兼ヌルヲ得ス
- 一 事務員 若干名 特別會員中ニ就キ會長之ヲ委囑ス
- 第六條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年四月ニ更任スルモノトス
- 第七條 通常會員ハ入會金及會費ヲ左ノ通り授業料ト同時ニ會計係ヘ分納スヘシ但シ學則第三十六條及第四十條ニ依リ授業料ヲ減免セラレタル者ニ對シテハ會費ヲ減免ス

ス既納ノ會費ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス
 一、入會金貳圓及會費金貳拾圓 第一學年自四月十五日至同月廿一日
 一、會費金拾參圓 第二、第三學年及ヒ原級生自四月十五日至四月廿一日金八圓、自九月十五日至九月廿一日金五圓

特別會員ハ會費トシテ毎月俸給月額高等官及同待遇ハ千分ノ十、判任官及同待遇ハ千分ノ五ヲ出金スルモノトス
 入會金貳圓ハ事業基金トシテ積立ツルモノトス但シ基金ノ使途ハ總會ノ決議ヲ要スルモノトス

第八條 總會ハ左ノ事項ヲ議スルモノトス

- 一 本會豫算及決算ニ關スル事項
 - 一 本會規則ノ改正
 - 一 其ノ他會長若ハ各部ニ於テ重要ト認メタル事項
- 總會ニ出席スヘキ者左ノ如シ

會長 副會長 部長 委員及理事 評議員

但シ採決ハ各評議員一票及各部一票トス

總會ノ決議ハ會長ノ認可ヲ經テ効力ヲ生スルモノトス

第九條 總會ハ票決權ヲ有スルモノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第十條 豫算査定會ニ出席スヘキ者左ノ如シ

總務部長、各部委員、評議員、理事

第十一條 毎年度ノ收支決算ハ本會雜誌ニ掲載ス

第十二條 會計検査ハ評議員中ヨリ互選スル特別會員二名及互選セル通常會員四名ヲ以テ之ヲ行フ

○校友會役員

會長 金子 校長
 副會長 菊池 教授
 部長委員及理事

部	別	部	長	委	員
總務部	行元生徒主事兼教授 鍵谷教授兼生徒主事	文乙三	田中章	理乙三	吉元三郎
劍道部	安河内教授	理	德重孝始	理甲二	鈴木茂弘
		事	伊藤義雄	理乙二	小林海雄
		文甲二		理甲二	
		文乙二		理乙二	
		理甲三		文甲二	菅原伸太郎
		文乙三		理甲二	萩原正信

柔道部	橋本教授	文乙三	田中篤五郎	理甲三	淺江文夫
弓道部	澄谷教授	理甲三	小玉洪平	文甲二	淺田耕也
陸上部	相原助教授	文乙二	坂本公廉	理甲二	森永恭三
野球部	井手教授	文甲一	大西貞三	理甲一	重川高郎
庭球部	木方教授	理甲三	飛田一夫	文甲一	赤井哲治
蹴球部	山村教授	文甲三	政家英久	理乙一	佐藤敬治
籠球部	矢野教授	文乙二	鮎田嘉博	文甲二	西本修吉
山岳部	北川教授	文甲三	秋山五郎	文乙二	大野和彦
水泳部	河路教授	理甲三	藤原正三	理乙二	柴田芳三
端艇部	伊藤教授	文乙三	協田右馬太郎	理甲一	半田順俊
文藝部	大江教授	理甲一	赤松哲夫	理乙一	河野隆夫
辯論部	三原教授	文甲二	吉田康夫	文乙二	堅山一夫

○對抗競技ニ關スル全國高等學校長ノ申合事項

- 評議員 早崎教授 森下教授 川本教授
- 文甲三 福良忠雄 文乙三 芥川龍弑 理甲三 伊藤勝
 理乙三 本田尙 文甲二 正岡二一 文乙二 鈴木靖
 理甲二 東海林義光 理乙二 菊野晴二郎 文甲一 矢野晴夫
 文乙一 宮脇辰雄 理甲一 重松恒信 理乙一 白石定男
- 事務員 近藤書記兼助教授 福井書記
- 第一條 此ノ申合ニ對抗競技ト稱スルハ他ノ學校若ハ團體ヲ相手トシテ行フ總テノ競技ヲ包含ス
- 練習試合ハ之ヲ對抗競技ト看做ス
- 第二條 對抗競技ノ相手ハ高等教育ヲ施ス諸學校ニ限ル
 但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 原級ニ止マリタル生徒ハ當該學年間之ヲ對抗競技ニ參加セシムルコトヲ得ス
- 第四條 對抗競技ヲ行フ時期ハ定期休業中トス但シ學校所在地又ハ授業(舉式ヲ含ム)ニ影響ナク往復シ得ヘキ土地ニ於テ行フ場合ハ此ノ限ニアラス
- 第五條 對抗競技ノ回數ハ前條但シ書ノ場合ヲ除キ同一種類ノ運動ニ就キテハ一學年

- 一回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ休業中ニ於テ競技地並其ノ沿道ニ於テ行フ競技ハ本文ノ回数ニ算入セス
- 第六條 對抗競技ノ爲授業ヲ休止スルコトヲ得ス
- 第七條 對抗競技ヲ行フ際入場料ヲ徴收スルコトヲ得ス入場料ヲ徴收スル對抗競技ニハ參加セサルモノトス
- 第八條 對抗競技ヲ行フ場合ニハ成ルヘク教官ヲ同行セシムルモノトス
- 第九條 高等學校間ニ於テ對抗競技ヲ行ハムトスルトキハ關係學校長ハ其ノ時期、場所及方法等ニ就キ豫メ打合ヲ爲スモノトス

○松山高等學校同窓會規約

- 第一條 本會ハ會員相互ノ交誼ヲ厚クシ且母校トノ親密ナル連絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ヲ松山高等學校同窓會ト稱ス
- 第三條 本會會員ヲ左ノ二種ニ分ツ
 - 一 正會員 母校卒業者
 - 一 特別會員 母校職員及舊職員
 但シ會長ノ推薦ニ依リ本校出身者ヲ正會員、本校緣故者ヲ特別會員トナスコトア

ルヘシ

- 第四條 本會ハ本部ヲ母校ニ、支部ヲ總會ノ承認セル會員在住ノ各地ニ置ク
- 第五條 本會ノ目的ヲ達成スル爲左ノ諸件ヲ實行ス
 - 一 會員ノ動靜母校ノ近況ヲ報スルカ爲毎年十二月會員名簿ヲ兼ネタル會報ヲ頒布ス
 - 一 毎年一回總會ヲ母校所在地ニ開ク
 - 一 其ノ他臨機適當ナル事業
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 校長ヲ推戴ス
 - 理事 若干名 支部會員ノ互選ニヨリ會長之ヲ囑託シ任期ヲ一ケ年トス
 但シ二名ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
- 事務取扱 二名 特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
- 第七條 會長ハ本會ヲ總裁シ理事ハ本會ノ重要事務ヲ處理シ事務取扱ハ會長、理事ノ旨ヲ承ケテ庶務會計ノ事ニ從フ
- 第八條 各支部ハ役員其ノ他其ノ部ニ關スル一切ノ事項ヲ議定シ之ヲ本部ニ報告スヘシ
- 第九條 本會理事任期中ニ缺員ヲ生シタルトキハ會長之ヲ補充ス
- 第十條 正會員ハ入會ノ際會費トシテ一時金五圓ヲ納付スルモノトス
- 特別會員ハ毎年總會前月ニ於テ應分ノ寄附ヲ爲スモノトス

但シ舊職員ハ此ノ限ニアラス

第十一條 會費ハ當分之ヲ基金トシテ積立テ其ノ利子ハ主トシテ通信、編纂及印刷費等ニ使用シ若シ剩餘ヲ生シタル場合ニハ之ヲ積立金ニ繰入ルルモノトス

收支決算ハ毎年本會會報ニ掲載ス

基金ノ使途ニ關シテハ役員會ノ決議ヲ經ヘキモノトス

第十二條 正會員ハ其ノ職業住所等ニ異動ヲ生シタル場合ハ其ノ都度之ヲ本部ニ通告スヘシ

第十三條 本會會則ノ變更ハ總會ニ諮ルヘキモノトス

○舊職員

前官職	就職年月日	轉退年月日	摘要	氏名
校醫	大正八、六、三〇	大正九、五、一一	解囑	中井茂樹
講師	大正九、四、六	大正九、六、三〇	同	リチャド、ジョン、ダスカ
校醫	大正九、五、二二	大正一〇、二、二八	同	植田不二三
講師	大正九、二、一七	大正一〇、三、一〇	同	鹽月善吉
書記	大正八、六、二八	大正一〇、三、一五	退官	大野武之助
講師	大正一〇、四、二六	大正一〇、六、一〇	解囑	湯田重太郎
講師	大正九、九、一	大正一〇、六、三〇	解囑	荒川重理
講師	大正一〇、四、二六	大正一〇、七、三一	同	辻卓爾
教授	大正八、六、二	大正一〇、一、二〇	轉任	中目覺
書記	大正九、五、一四	大正一〇、一、二五	同	白方肇
人國記	大正九、一〇、一	大正一〇、一、二九	解備	オスカ、カール、フオン、ウエグマン
書記	大正八、五、三〇	大正一〇、一、二九	轉任	田中鶴之助
講師	大正一一、一、一〇	大正一一、三、一〇	同	高木敏
講師	大正一〇、三、一五	大正一一、三、三一	解囑	井上清英

舊職員

一四三

校醫	教授	教授	同	同	講	助教	講	教	教	書	教	講	教	備	教	教	助	
醫	授	授	師	師	師	師	師	師	師	記	授	授	授	授	授	授	授	授
大正一〇、二、二八	大正九、七、一〇	大正九、三、三一	大正八、六、三〇	大正八、六、二八	大正一一、七、三一	大正八、一一、一五	大正八、一一、一五	大正八、一一、一五	大正八、一一、一五	大正九、六、二五	大正一一、〇、四、五	大正九、八、一六	大正一一、三、一五	大正一一、三、一五	大正一一、三、一五	大正一一、三、一五	大正一一、三、一五	大正一一、三、一五
大正一一、四、三〇	大正一一、六、二八	大正一一、六、三〇	大正一一、七、二〇	大正一一、八、一〇	大正一一、一〇、一〇	大正一一、一〇、三一	大正一一、一〇、三一	大正一一、一〇、三一	大正一一、一〇、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一	大正一一、二、三一
同	死去	轉任	解囑	轉任	解囑	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
後藤	中島	鈴木	木村	十龜	倉田	衛藤	河東	岡野	坂崎	玉井	榎澤	酒井	三井	高木	高木	中森	大森	大森
義貞	惟中	清太	秦吉	太一	勝三	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次	留次

校醫	校醫	教授	教授	同	同	書	講	講	教	講	講	校	同	教	書	校	書
醫	醫	授	授	師	師	記	師	師	授	師	師	長	授	授	記	醫	記
大正一五、四、二四	大正一四、二、二八	大正八、六、三〇	大正一三、七、一	大正一四、三、二〇	大正一〇、三、三一	大正一〇、二、二四	大正一三、四、九	大正一〇、四、一六	大正九、九、七	大正一四、三、一六	大正一三、六、一	大正八、四、一五	大正一一、三、一〇	大正八、六、二六	大正一三、九、一	大正一一、九、三〇	大正八、五、二〇
大正一五、八、一三	大正一五、四、一三	大正一五、三、三一	大正一五、三、三一	大正一四、一〇、一四	大正一四、九、八	大正一四、八、三一	大正一四、八、三一	大正一四、六、五	大正一四、五、二八	大正一四、四、三〇	大正一四、四、三〇	大正一四、四、七	大正一四、三、三一	大正一四、三、三一	大正一四、三、二〇	大正一四、一、二二	大正一三、九、一
同	解囑	轉任	解囑	同	同	退官	解囑	解囑	轉任	同	同	同	轉任	同	退官	解囑	退官
祁答院	吉田	名須川	ハント	竹内	和田	武本	國技	平井	林原	長門	中田	由比	大橋	神谷	中谷	堀江	角南
高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志	高志

關
係
法
令

第九 關係法令

一 高等學校令

(大正七年勅令第三百八十九號)

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
- 第六條 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第七條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
- 第十條 專攻科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ

- 限ニ在ラス高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
- 第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
- 第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以内トス
- 第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス
- 第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
- 第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
- 第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徴シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス
 舊令ニ係ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
 前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
 高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二 高等學校規程

(大正八年文部省令第八條)

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、公民科、國語漢文、外國語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、音樂、作業科、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一	一	一	一
公民科			一	
國語漢文	七	七	六	六
外國語	六	七	六	六

體操	音樂	圖畫	理科	數學	地理	歷史
計	三	三	三	三	三	三
五	一	一	二	四	三	三
五	一	一	二	四	三	三
五	一	一	四	四	三	三
五	一	一	五	四	三	三

作業科、圖畫、音樂等ノ實習及體操ハ前表ノ教授時數ヲ適宜増加シテ之ヲ課スル事ヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス
第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル義務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表スノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歷史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明シ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

第十條 地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ智識ヲ授クヘシ

第十一條 哲學概説ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

第十二條 心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

數學ハ文科ニ在リテハ數學緒論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在テハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學、有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル智識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル智識ヲ授ケ又便宜上主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法則及經濟ハ法則及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法則及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法則上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道、柔道及弓道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	三	五	四
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九 (三三)	二九 (三三)	二八 (三三)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ル

ヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇
第二外國語	(三三)	(三三)	(三三)
計	(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
 第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	一
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四
物理學		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	(講義二) 四

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
鑛物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	(二)
體操	三	三	三
計	(二八)	(二八)	(二八)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ撰擇セシムルモノトス
 第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	(三三)	(三三)	(三三)
計	(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、鑛物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲナスコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ兼任教員ハ教員數ノ半數ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道、柔道又ハ弓道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ
校舍ハ教授、上管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則、日課表及教科用圖書配當表
 - 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表
 - 三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類
 - 四 試驗ノ問題、答案及成績表
 - 五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄
- 生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

- シ
 - 一 名稱
 - 二 高等學校令第七條ノ事項
 - 三 學則
 - 四 各科ノ生徒定數
 - 五 位置及校地
 - 六 校舍ノ圖面及建設ノ設計
 - 七 開校ノ期日
 - 八 經費及維持ノ方法
- 前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ
- 第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

- 第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス
- 第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先テ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ
- 第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ檢定ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム
- 第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了

シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先テ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- 二 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者
- 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ入學前ニ於ケル學業成績ト中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ行フ試驗ノ成績ト併セ考査シテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ試驗ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

前項ノ考査ノ外必要アリト認ムルトキハ入學志願者ニ對シテ人物考査ヲ行フコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ身体檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限り入學セシムヘシ但シ

當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進人シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進人スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ當該學年ノ程度ニ於テ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル者

ハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得
第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スル事ヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得
第五十條 高等學校尋常科各學年ノ課程又ハ全學科ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

高等學校高等科各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書、專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ
第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者
- 五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ終了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス
高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號、高等學校大學豫科入學者無試験檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試験規程ハ之ヲ廢止ス

附則

(昭和二年文部省令第二十八號)

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條第二項及第四十四條ノ規定改正ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和六年文部省令第七號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

作業科ハ本令施行後五年以内之ヲ缺クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタル學校ニシテ之ヲ置クニ至リタル際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

第三項ノ規定ニ依リ作業科ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ教授時數ハ適宜之ヲ他ノ學科目ニ配當スヘシ

參 照

明治四十一年文部省令第九號ハ高等學校大學豫科入學者ニ關スル件ナリ

三 文部省直轄諸學校官制 (抄) (明治二十六年勅令第八十六號)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京女子高等師範學校、奈良女子高等師範學校、盛岡高等農林學校、鹿兒島高等農林學校、上田蠶絲專門學校、東京高等蠶絲學校、京都高等蠶絲學校、鳥取高等農業學校、三重高等農林學校、宇都宮高等農林學校、岐阜高等農林學校、宮崎高等農林學校、千葉高等園藝學校、長崎高等商業學校、山口高等商業學校、小樽高等商業學校、名古屋高等商業學校、福島高等商業學校、大分高等商業學校、彦根高等商業學校、和歌山高等商業學校、

新潟高等商業學校、高松高等商業學校、高岡高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第三高等學校、第四高等學校、第五高等學校、第六高等學校、第七高等學校造士館、第八高等學校、新潟高等學校、松本高等學校、山口高等學校、松山高等學校、水戸高等學校、山形高等學校、佐賀高等學校、弘前高等學校、松江高等學校、東京高等學校、大阪高等學校、浦和高等學校、福岡高等學校、靜岡高等學校、高知高等學校、姫路高等學校、廣島高等學校、富山藥學專門學校、熊本藥學專門學校、京都高等工藝學校、名古屋高等工藝學校、熊本高等工業學校、米澤高等工業學校、桐生高等工業學校、橫濱高等工業學校、廣島高等工業學校、金澤高等工業學校、仙臺高等工業學校、明治專門學校、東京高等工藝學校、神戶高等工業學校、濱松高等工業學校、德島高等工業學校、長岡高等工業學校、福井高等工業學校、山梨高等工業學校、秋田鑛山專門學校、東京高等商船學校、神戶高等商船學校、東京外國語學校、大阪外國語學校、東京高等齒科醫學校、東京美術學校、東京音樂學校、東京盲學校、東京聾啞學校

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

生徒主事

助教

書記

生徒主事補

前項職員ノ外文部省直轄諸學校職員定員令ノ定ムル所ニ依リ助手ヲ置クコトヲ得

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事ハ奏任トシ其ノ他

ノ學校ノ生徒主事ハ當該學校ノ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス
生徒主事ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十條ノ二 文部省直轄諸學校職員定員令ニ於テ生徒主事補ノ專任定員ヲ配置シタル學校ノ生徒主事補ハ判任トシ其ノ他ノ學校ノ生徒主事補ハ當該學校ノ判任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス生徒主事補ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒主事ノ職務ヲ助ク

第十條ノ三 助手ハ判任トス教授又ハ助教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若ハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

四 文部省直轄諸學校職員定員令

(抄) (明治三十五年勅令第九十九號)

文部省直轄諸學校專任教員ノ定員左ノ如シ

	校長	教授	生徒主事	助教授	助手	書記	生徒主事補
松山高等學校	一人	二十五人	一人	二人	一	六人	一人

五 文部省直轄諸學校校長職務規程

(大正二年文部省訓令)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト

第六 講師ノ解雇及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

六 高等學校教員規程

(大正八年文部省令第十號)

第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規定ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ効力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受檢者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身 國語 漢文 英語

佛語	獨語	日本史及東洋史	西洋史
地理	哲學概說	心理及論理	法制及經濟
數學	物理	化學	植物
動物	地質及礦物	圖學	

前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受檢者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ撰譯ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受檢者出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ毎年少クトキ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限及試驗ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試驗施行ノ期日及試驗ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

四 戶籍抄本

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校、大學豫科又ハ學習院高等科元高等學科ヲ卒業シタル者

六 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者

九 五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得

一 前條第一項第一號第二號及第九號ニ該當スル者

二 高等師範學校專攻科若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

三 元東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者

四 本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位又ハ卒業證書ヲ有スル者

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケントシタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試驗ヲ受クコトヲ得

ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス

公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ

文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教官タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス(書式略ス)

七 帝國大學官立大學及文部省直轄諸學校 雇外國人ニ關スル件

(明治二十六年勅令第九十六號)

文部省直轄諸學校ニ於テ學科、教授ノ必要アルトキハ直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

八 高等學校高等科入學資格試驗規定

(大正八年文部省令第九號)

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六條第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス專門學校入學者檢定規程第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第五條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交附スヘシ

第六條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第七條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則
本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

九 文部省直轄學校外國人特別入學規程 (明治三十四年文部省令第十五號)

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添へ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試験ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料、入學料及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號又部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 外國人及殖民地人學生ニ對スル入學取扱方

(大正十年五月九日文部次官發專六十六號通牒)

從來外國人ニシテ大學及其ノ豫科、高等師範學校、女子高等師範學校、專門學校又ハ高等學校ニ入學シ得ヘキ規定上ノ資格、中學校又ハ高等女學校卒業、中學校第四年修了者ハ之ト同等ノ學力アリト檢定セラレタル者等)ヲ有セサル者此等ノ學校ニ入學セントスル場合ニ於テハ之ヲ別科、選科等所謂特科生トシテ入學セシムル例ナルモ外國人ニ關シテハ多少ノ特例ヲ設クル必要アリト考ヘラル、ヲ以テ今後ハ各學校ニ於テ其ノ入學資格ニ相當スル試驗(例ヘハ中學校卒業ヲ入學資格トスル學校ニ於テハ中學校卒業程度ノ試験ヲ行フカ如キ)ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル合格者ハ之ヲ正科生トシテ入學セシメ差支ナキコトニ省議決定シタルニ依リ御承相成度

從來支那政府ノ委託ニ依リ東京高等師範學校、第一高等學校、東京高等工業學校、山口高等商業學校及千葉醫學校門學校ニ於テ收容セル留學生ニ就テハ從前ノ通取扱フモノト御承相成度

一〇 臺灣、朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用

(明治四十四年文部省令第十六號)

文部省直轄學校特別入學規程ハ臺灣人若ハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

(明治四十四年十月六日朝鮮留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做ス通牒) (大正元年十一月六日臺灣留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做ス通牒)

一一 高等師範學校及文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ヲクシテ受ケタル他ノ高等師範學校及直轄諸學校入學試験無効ニ關スル件

(明治三十八年文部省令第十八號)

高等師範學校及文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ高等師範學校及文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

一二 文部省直轄諸學校ノ二學校以上入學出願者ノ入學スヘキ學校

(大正十一年專門學務局長通牒)

同一人ニシテ大學豫科、實科、專門部若ハ直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學校ニ入學ヲ許可セラレタルトキハ本人ノ撰擇ニ依リ其ノ入學スヘキ大學豫科、實科、專門部若ハ學校ヲ決定シ得

一三 高等學校高等科學力檢定規程

(大正十年文部省訓令)

- 第一條 高等學校高等科學力檢定試驗ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試驗施行ノ通告アリタル場合ニ限り高等學校ニ於テ施行ス
- 試驗ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス
- 第二條 試驗ハ高等學校高等科卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ
- 高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校第四學年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試驗ヲ行フヘシ
- 第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ
- 既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス
- 第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左式ノ説明書ヲ交付スヘシ
(證明書略ス)

一四 學生生徒兒童身體檢查規程 (抄) (大正九年文部省令第十六號)

- 第一條 學生生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得ル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得
- 監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得
- 第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ
- 學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
- 學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ在リテハ齒牙ノ檢查ハ學校齒科醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ
- 學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得
- 第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 發育(身長、體重、胸圍、概評) 二 榮養 三 脊柱 四 視力及屈折狀態 五色 六 眼疾 七 聽力 八 耳疾 九 齒牙 十 其ノ他ノ疾病及異狀 十一 醫察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得

色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハセンチメートル、衡ハキログラムヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ夫々單位ノ下二位ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ(下略)
- 三 體量ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ(下略)
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス
- 六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス
- 七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス
- 八 視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ檢查シ裸眼視力ヲ記入スヘシ裸眼視力一、〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ
弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

- 九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ
 - 一〇 聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ
 - 一一 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ
 - 一二 其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及器能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ
 - 一三 暗察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康状態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ暗察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス
- 第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用ルモノトス第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的暗察ノ場合亦同シ
- 他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ
- 身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ
- 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ
- 第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り直轄學校公立私立ノ大學高等學校及專門學校ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ
- 地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取調シ其ノ年七月限り文部大臣ニ報告スヘシ
- 第九條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

一五 學生生徒兒童身體検査規程上ノ發育概評決定標準 (抄)

(昭和二年文部省訓令第二號)

- 學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス
- 一 七年ヨリ十八年マテノ男子(中略)ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス
 - 表中ニ掲ケサル年少者ニ關シテハ右ニ準シテ推定スルモノトス
 - 二 十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一六〇、六センチメートル、體重五三、六キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇、三三四以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一五七、〇センチメートル、體重四八、八キログラム、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ〇、三一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス
 - 三 前各號ニ於ケル被檢者ノ身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ計算ハ小數第三位ニ止メ第四位以下ハ切捨ツルモノトス

發育概評決定標準表

年 齡	身 長	體 重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十 六 年	一五二・七	四四・五	〇・二九一

十	七	年	一五七・〇	四八・二	〇・三〇七
十	八	年	一五九・一	五〇・七	〇・三一九
十	九	年	一六〇・三	五二・六	〇・三二八

一六 學校醫職務規程 (昭和七年文部省令第三號)

- 第一條 學校醫ハ少クトモ毎月二回教授時間内ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ調査スヘシ但シ必要ニ應シ調査事項ノ取捨ヲ行フコトヲ得
- 一、校地、建物並設備ノ衛生ニ關スル事項
 - 二、校具ノ衛生ニ關スル事項
 - 三、教授衛生ニ關スル事項
 - 四、運動ニ關スル事項
 - 五、職員學生生徒兒童ノ健康狀態
 - 六、病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督看護ニ關スル事項
 - 七、清潔ニ關スル事項
 - 八、飲料水並飲食物ニ關スル事項
 - 九、其ノ他ノ衛生上必要ナル事項
- 臨時必要アル場合ニ於テ學校醫ハ管理者又ハ學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ
- 第二條 學校醫ハ學生生徒兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通

- 知アリタルトキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療、保護矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 前項ノ異常アル學生生徒兒童中就學猶豫、就學免除、休學、退學等ヲ要セサル者ニ對シ學校醫ハ經緯的ニ之ヲ觀察スヘシ
- 第三條 學校醫ハ學校職員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第四條 學校醫ハ學生生徒兒童身體檢查規程ニ依リ學生生徒兒童ノ身體檢查ヲ爲スヘシ
- 第五條 學校醫ハ學校傳染病豫防規程ニ依リ學校傳染病豫防ニ關スル事務ニ從事シ同規程第三條及第五條乃至第十條ノ場合ニ於テハ必要ナル事項ヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第六條 學校醫ハ第二條第三條及第五條ニ掲ケル場合ノ外學校衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ管理者又ハ學校長ニ申告スヘシ
- 第七條 學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ述フヘシ
- 第八條 學校醫ハ學校長ノ請求ニ應シ學生生徒兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講和ヲナスヘシ
- 第九條 學校醫ハ其ノ調査シタル事項、執務ノ狀況、申告若ハ建議セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫執務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ
- 第十條 學校醫ハ本令ニ掲クルモノノ外官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事スヘシ
- 第十一條 本令ノ實施ニ關シ必要ナル規程ハ官立學校、公私立ノ大學、高等學校及專門學校ニ在リテハ夫々當該學校長、其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十二條 幼稚園醫及青年訓練所醫ノ職務ニ付テハ前各條ノ規程ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一七 兵役ニ關スル法令

○兵役法（抄）

（昭和二年法律第四十七號）

第四十一條 中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應シ年齡二十七年ニ至ル迄徵集ヲ延期ス

前項ニ規定スル認定及年齡ノ區分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ就テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第二項ノ年齡ノ區分ニ基ク最高年齡ニ達スルモ在學ノ事由尙止マサル者ハ最高年齡ニ達シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ

附 則

本令ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ徵兵令第二十三條ノ規定ニ依リ入營ヲ延期セラレ居ル者ニ付テハ尙従前ノ例ニ依ル

一八 陸軍現役將校學校配屬令（抄）（大正十四年勅令第三百三十五號）

第一條 官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學豫科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第六條 配屬將校傷病疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九 學校教練教授要目（抄）（大正十四年文部省訓令第六號）

學校ニ於ケル教練ノ實施ニ關シ左ノ通教練教授要目ヲ定ム

陸軍現役將校ノ配屬ヲ受ケテ教練ヲ行フ學校ニ在リテハ本教授要目ニ依リ教練ヲ行フヘシ之カ監督ノ衝ニ當ル者ハ宜シク本教授要目ノ示ス所ニ依リ土地ノ情况ト學生生徒ノ心身ノ發達トニ鑑ミ各適切ナル教程ヲ定メ以テ、教練實施ノ本旨ヲ貫徹セシムコトヲ期スヘシ

教練教授要目

一 教材

各個教練 部隊教練 射擊 指揮法 陣中勤務 旗信號 距離測量 測圖 軍事講話 戰史 其ノ他

二 教材ノ配當

高等學校

大學預科
專門學校
高等師範學校
臨時教員養成所
實業學校教員養成所
實業補習學校教員養成所(修業年限二年)

左記ノ教材ヲ適宜配當シテ之ヲ實施スヘシ

各個、部隊教練

射擊

指揮法

陣中勤務

軍事講話

備考

- 二 師範學校、中學校及實業學校ニ於ケル既習事項ニ習熟セシメ特ニ指揮法ノ程度ヲ向上セシムヘシ
 - 三 部隊教練ニ於テハ簡易ナル大隊教練ヲ行フコトヲ得
 - 四 射擊ニ於テハ毎年二回以上狹窄射擊ヲ行ヒ尙設備ノ許ス場合ニ於テハ一回以上實包射擊ヲ行フヘシ
 - 五 軍事講話ニ於テハ外國軍制ノ要綱並ニ諸兵聯合部隊運用ノ初步ヲモ教授スヘシ
 - 六 軍事ニ關スル諸設備各種演習ノ見學ハ適宜之ヲ行フヘシ
- 三 每週教授時數並毎年野外演習日數

學校	種別	學年	別	每週教授時數	毎年野外演習日數
----	----	----	---	--------	----------

專門學校

學校

五

四

備考

四 本表ノ日時數ハ最少限度ヲ示ス

二〇 學校及圖書館特別會計法 (抄) (明治四十年法律第二十三號)

- 第一條 文部省直轄諸學校及帝國圖書館ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テシメ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其他ノ收入ヲ以テ其ノ歳出ニ充テシム
- 第三條 學校及圖書館資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動産及不動産並歳入殘餘ヨリ成ル
- 但シ第八條施行豫算ノ歳入殘餘ニシテ資金ニ編入セラレタルモノハ學校及圖書館毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ
- 第五條 學校及圖書館ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタルトキハ當該學校及圖書館ノ爲メニ特別會計ヲ設クルモノトス
- 第六條 教員事務員ノ俸給、諸給、旅費、器具、機械、圖書標本費、授業費、試験費、生徒ニ關スル諸費、事務所費、修繕費、雜支出其他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館特別會計ノ歳出トス
- 第七條 政府ハ毎年學校及圖書館特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第十條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ
- 第十三條 學校及圖書館特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

H 135

